

# 和歌山県・市町村DX 成果発表会

2025.3.7 (金) 13:30 - 16:30

会場：和歌山県職員研修所



# 開会のご挨拶

和歌山県 行政企画局長  
福地 正純 氏



# 本日のプログラム

13:30 - 13:35 開会のご挨拶

13:35 - 13:45 市町村DX事業の経緯（行政企画課）

13:45 - 13:55 令和6年度事業の報告（CoCo Consulting株式会社）

13:55 - 14:30 紀北9団体成果発表・紀北アワード（Slido投票・表彰）

14:30 - 14:45 休憩

14:45 - 15:25 紀中11団体成果発表・紀中アワード（Slido投票・表彰）

15:25 - 15:40 休憩

15:40 - 16:15 紀南10団体成果発表・紀南アワード（Slido投票・表彰）

16:15 - 16:20 地域デジタル基盤活用推進事業 実績報告（デジタル社会推進課・有田市）

16:20 - 16:30 和歌山アワード（各重点分野の表彰）

16:30 閉会

# 市町村DX事業の経緯

和歌山県 行政企画課  
口井 良太 氏



# 市町村行政DX推進事業の振り返り(R4年度)

## 基本的な考え方、推進体制

中長期的な変化・リスク(①少子化・人口減少②大規模災害・感染症③社会全体のデジタル化)への対応が必要

『行政のあり方を全面的にデジタルを前提としたものへと移行する』DXを県・市町村が一体となって推進

新設

市町村DX推進部会  
〈方針・方向性を確認〉

連携

新設

市町村DX担当者会議  
〈課題を共有し相談・共助〉

## 具体的な取組

### 住民の利便性向上

#### ■行政手続のオンライン化支援

##### ○LoGoフォーム共同利用の推進

利用団体をとりとめることでボリュームディスカウントが適用

##### ○電子申請フォームの雛形提案

団体間比較を実施のうえ標準的なテンプレートを作成

### 行政運営の効率化

#### ■定型業務の見直し(BPR)支援

##### ○全庁業務量調査(R3)

コニカミノルタとの協定に基づき県と17市町村が同時に実施

##### ○業務見直しの提案

団体間比較を実施のうえ5つの定型業務の見直し案を作成

## 取組の中から見えてきたこと

DX専門部署を設置している団体は一部であり、**ほとんどの団体において慢性的に人員不足**

また、**30市町村それぞれに現状が異なっており、課題を整理する段階から、団体が相談できる人材が必要**

# 市町村行政DX推進事業の振り返り(R5年度)

## 事業内容の再構築

- 団体間比較によって、法律の定めに基づく同じ業務であっても、異なる業務フローが存在していることを確認
- 市町村DXといっても一括りにできるものでなく、団体ごとに異なる現状・課題・ニーズに個別に対応する必要
- 「何から取り組めばよいのかわからない」との声も多く、意識改革・気運醸成から始める複数年計画でアプローチ

## 具体的な取組

### 現状把握

#### 和歌山県市町村DXに関する調査（R6年度前期）

本調査は和歌山県が実施する「和歌山県・市町村行政DX推進による行政経営変革支援事業」において、市町村のDX化について、組織づくり・仕組みづくりの推進状況における取り組み状況を把握することで、市町村毎の的確な財政支援につなげるとともに、次年度以降の県、市町村連携の取り組み内容を検討するために実施いたします。分析結果は全体の集計結果とご回答内容を比較できるレポートの形でお返しする予定であり、組織内での状況共有にもご利用頂ける想定のため、ぜひご回答の程よろしくお願いたします。

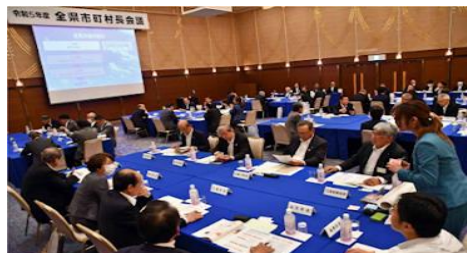
調査実施：2024年5月7日（金）  
設問数：全66問（全9ページ）  
想定回答時間：30～40分  
本調査に関するお問い合わせ先：「和歌山県・市町村行政DX推進による行政経営変革支援事業」事務局（担当：森、中村）  
wakayama@ccc.consulting

#### ■ DXアンケート調査〈定量的アセスメント〉



#### ■ よろず相談〈定性的アセスメント〉

### 気運醸成



#### ■ トップセミナー〈@市町村長会議〉



#### ■ DX入門研修〈28団体 約1,000名受講〉

## 3ヶ年計画で「よろず相談」事業を開始

### 関係性構築



#### ■ 市町村DX合同研修



#### ■ 国制度の活用支援〈アドバイザー派遣〉

1年目はまず、DX推進に向けた各市町村の現状を把握するとともに、認識共有・気運醸成を図る取組から開始  
合わせて、あらゆるステークホルダーによるコミュニケーション機会を創出し、関係性の構築に努めた



# アセスメント結果の変遷・分析①

## 支援分類と評価指標

## KPI設定

レベル	支援分類	定義	R5年度実績	R6年度実績	R7年度目標
4	共創	課題を自ら解決し、他自治体を牽引できる団体	2団体	6団体	12団体
3	協働	課題を判断して整理し、外部支援を活用できる団体	10団体	22団体	18団体
2	支援	課題に対する要求・要件定義など、伴走支援が必要な団体	12団体	2団体	
1	関与	課題の整理をはじめ、全体的に関与が必要な団体	6団体		

## アセスメント項目

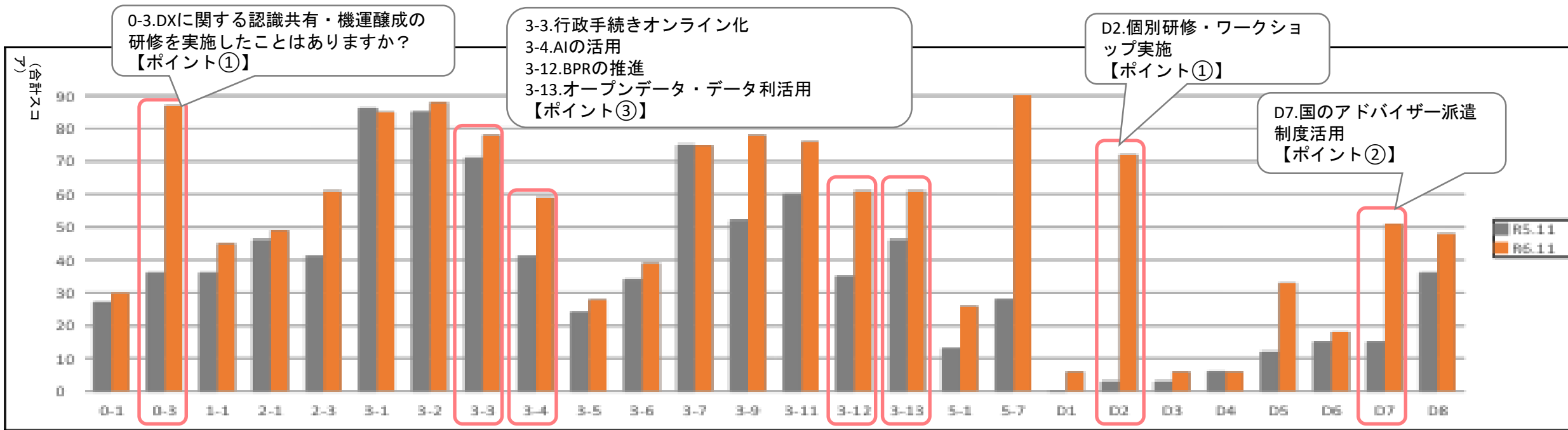
【スコア基準】 (総務省項目) 3: 推進している 2: 推進予定 1: 時期は未定だが推進を検討中 0: 推進する予定はない  
(和歌山県項目) 3: 実績が1件以上ある 0: 実績が無い

指標分類	アセスメント項目	指標分類	アセスメント項目
総務省：自治体DX全体手順書に基づく評価基準	0-1.基本的な考え方：組織内において、DXに関する定義を行っていますか？	総務省：自治体DX全体手順書に基づく評価基準	3-11.デジタルデバイド対策を推進していますか？
	0-3.DXに関する認識共有・機運醸成の研修を実施したことはありますか？		3-12.BPRを推進していますか？
	1-1.DX推進にかかる計画・指針等を策定していますか？		3-13.オープンデータ・官民データ活用を推進していますか？
	2-1.DX推進の責任者(例：CDO等)を配置していますか？		5-1.DX推進のための人材育成・確保方針は策定していますか？
	2-3. DX推進担当部門を設置していますか？		5-7.DX推進にかかる外部人材を活用していますか？
	3-1.システム標準化対象の20業務の対応状況を教えてください。		D1.他団体向けの講演・研修の実施
	3-2.マイナンバーカードの普及促進をしていますか？	D2.個別研修・ワークショップ実施	
	3-3.行政手続きのオンライン化を推進していますか？	D3.自団体の取り組みの発信・視察の受け入れ	
	3-4.AI（生成AIを含む）を活用していますか？	D4.ガイドライン等文書の他団体への展開	
	3-5.RPAを活用していますか？	D5.他団体に向けた事例共有	
	3-6.テレワークを推進していますか？	D6.IT系資格取得支援制度の有無	
	3-7.セキュリティ対策はどのくらい徹底していますか？	D7.国のアドバイザー派遣制度活用	
	3-9.デジタル田園都市国家構想の実現に向けたデジタル実装の取組の推進・地域社会のデジタル化の取組を行なっていますか？	D8.首長・副首長との意見交換実施	
		和歌山県が定義する指標	



# アセスメント結果の変遷・分析②

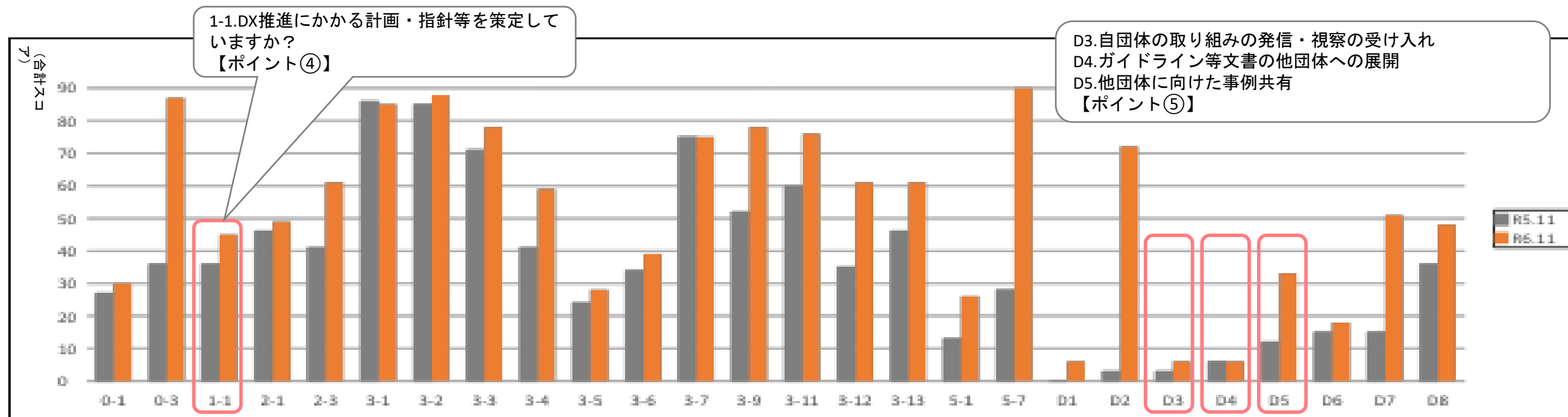
## 市町村の強みから考える施策の方向性



	結果指標	市町村の強み（長所として伸ばせる点）	施策の方向性（P7へ）
ポイント①	「0-3.機運醸成の研修」や、「D2.個別テーマに関する研修」に関する得点が大きく上昇	多くの市町村職員がDX推進に関する基本的なマインドやスキルを習得	個別支援から広域連携へ業務主軸を移行
ポイント②	「D7.国のアドバイザー派遣制度活用」に関する得点が大きく上昇 参考）制度活用実績（経営財務マネジメント強化事業） R4年度 0団体 0件 R5年度 22団体 23件 R6年度 20団体 34件	多くの市町村が自団体が抱える課題について判断し、外部支援を活用することが可能 （支援分類「3:協働」の要件）	
ポイント③	「3-3.行政手続きオンライン化」や「3-12.BPRの推進」など個別の取組の得点率が6割を超える	テーマ別の議論について、各市町村が具体的な事例を広域で共有できる素地が形成	

# アセスメント結果の変遷・分析③

## 市町村の課題から考える施策の方向性



	結果指標	市町村の課題（解消・克服したい点）	施策の方向性（P7へ）
ポイント④	「1-1.DX推進にかかる計画等の策定」に関する得点が5割に満たない	各市町村において目指す目標やビジョンが明示され、共通認識をもって行動できる団体が少ない	各団体の自立的なDX推進と共創・協働が可能となる仕組みを構築
ポイント⑤	「D3.自団体の取組発信」「D4.ガイドライン等の他団体への展開」「D5.他団体への事例共有」に関する得点が低く、伸び率も小さい	各市町村の取組をまとめて蓄積する仕組みが存在しておらず、好事例の横展開が少ない	

# R7年度事業(案)

## 事業の現在地・イメージ

【R5】 現状把握・気運醸成・関係性構築

【R6】 個別支援・情報共有・関係性深化

【R7】 広域連携・個別支援・仕組みづくり

【R8～】 自立的なDX推進と共創・協働促進

## 具体的な取組

### 広域連携

#### 新規 テーマ別よろず相談

- 市町村のニーズを踏まえて設定したテーマをもとに、広域での相談・連携を実施
- 〈対象〉 希望する市町村
- 〈方法〉 オンライン方式
- 〈回数〉 1テーマにつき年3回(2時間/回)
- 〈テーマ数〉 6テーマ
- 〈テーマ例〉 R8以降の事業のあり方・枠組み、窓口BPR・庁内BPR、DX人材育成・確保、共同利用・共同調達、オープンデータ・利活用、地域社会DXなど

#### 継続 地域別よろず相談

- 〈対象〉 各振興局管内の市町村
- 〈方法〉 オンライン方式
- 〈回数〉 1地域につき年2回(2時間/回)

#### 継続 市町村DX合同研修

- 〈対象〉 30市町村
- 〈方法〉 集合形式  
\* 県内で日帰りまたは1泊2日を検討
- 〈時期〉 R7年夏～秋頃

### 個別支援

#### 継続 定例よろず相談

- 一部団体に専属アドバイザーを担当配置
- 定例よろず相談(オンライン)による伴走支援
- 年間6回程度(隔月)を想定

#### 拡充 随時チャット相談

- 個別相談への対応にチャット(slack)を活用
- \* R5オフライン⇒R6オンライン⇒R7チャットに移行

### 仕組みづくり

#### 新規 県・市町村DX推進方針

- 各団体から、全体として目指す目標やビジョンが必要との意見
- 3ヶ年事業終了後の自立的なDX推進に向けて、今後進んでいく共創・協働の方針を検討
- 推進体制は市町村DX推進部会及び担当者会議の枠組みをベースに検討

#### 新規 ナレッジベース(DXポータルサイト)

- DXに関する各団体の取組・知見・情報等を一元的に蓄積するナレッジベースを試作・研究
- know-how(どのように)のみならず、know-who(誰が)に係る情報も集約する

- \* 個別支援(訪問・オンライン)ニーズには国制度の活用により対応を継続
  - 経営・財務マネジメント強化事業 5回/年
  - 地域情報化アドバイザー派遣制度 3回/年

3年目は個別支援から広域連携へ業務主軸を移行、広域的支援を実施する中で個別団体・取組の伸長も促進  
また、R8年度以降を見据えつつ、各団体の自立的なDX推進と共創・協働が可能となる仕組みの構築を目指す

# (参考)R8年度以降の自立的なDX推進と共創・協働に係る県議会答弁

■令和6年6月定例会 林 隆一 議員の一般質問に対する吉村総務部長答弁

【項目】3 和歌山県におけるDXの取組のうち、市町村DXに対する県の支援について 【内容】今後、どのようにして、市町村のDXを進めていくのか

ご質問のとおり、市町村DX、デジタルトランスフォーメーションの推進は重要です。

市町村によるDXの取組への支援といっても一括りにできるものではなく、個々の市町村の実情に応じたきめ細やかな支援を講じております。例えば、市町村によっては情報システム担当者が一人しか配置されていない団体もあります。そのような中でも、担当者を孤立させることなく行うことが重要であり、県からの支援と併せて、市町村の担当者同士の横の繋がりを構築していく取組を進めております。これにより、和歌山県では、「すべての市町村が、DXに関する課題を主体的に判断し、外部の支援も活用しながら推進できる」ようになることをめざしております。

具体的には、昨年度から複数の外部専門人材に市町村DXアドバイザーに就任していただき、首長・幹部それから職員の両面に働きかけて意識醸成を図っております。まず、全ての市町村長が集まる会議においてDXの推進をテーマにセミナーを行うだけでなく、市町村長同士が話し合うグループワークを行いました。併せて、DXアドバイザーが個別に全ての市町村を訪問して首長や幹部と面談いたしました。特に要請があった市町村については、幹部や一般職員向けの研修等も追加的に実施しております。また、市町村職員が日常的にDXに関する課題や困り事について相談できる「よろず相談」事業を立ち上げ、ビジネス・チャットツールを活用しながら、相互に助け合えるコミュニティの形成に努めております。

加えて昨年度は、紀北、紀南の2箇所で市町村職員向けの合同研修会を開催し、25市町村48名の市町村職員が参加したところです。

これらの取組により、市町村における行政DX推進の機運醸成を強力に働きかけ、市町村が自律的にDXに取り組める体制を支援してまいります。

■令和6年12月定例会 三栖 拓也 議員の一般質問に対する友井総務部長答弁

【項目】1 行政DXの取組状況について (2)市町村DX支援について 【内容】県として、各市町村の行政DXをどのように支援していくのか。

県では昨年度より、複数の外部専門人材を市町村DXアドバイザーとして確保し、各団体が抱える課題や悩みごとにアプローチする「よろず相談」事業を開始しました。DXを推進するためには全庁的な理解が欠かせないことから、市町村長が集まる会議においてDXをテーマとしたトップセミナーを開催するなど、あらゆる階層の意識改革・気運醸成を図ってまいりました。

今年度は、「よろず相談」事業による支援をより一層強化するため、専門人材チームの体制を6名から10名に拡充し、全市町村に担当アドバイザーを個別配置しました。市町村の状況を把握し、きめ細やかな支援を継続的に行うために月1回のオンライン相談を実施するなど、本格的な伴走支援に取り組んでいます。

その中で、人材育成に関しては国制度も活用しながら、団体の希望に応じて、業務改革やデータ利活用等をテーマとした研修を開催するほか、対面式の合同研修やeラーニングによる動画研修も実施しています。これらの研修により、今後も市町村のDX人材育成を支援してまいります。

また、新たにビジネス・チャットツールを導入することで、日常的に外部専門人材との相談が可能になっただけでなく、各団体がお互いの知識や経験を共有し、相互に助け合うコミュニティが形成されつつあります。加えて、振興局単位で集まり情報や意見を交換する「地域別よろず相談」や、市町村からの事例発表等を行う「成果報告会」にも取り組むことで、市町村同士の横連携を促進し、先進団体が他の団体を牽引する共助の流れに繋がっていきたいと考えております。

各市町村において、人口規模や人員体制に違いはありますが、県では外部専門人材を活用し、市町村の様々なニーズに応じて多角的に支援することで、「すべての市町村が課題を主体的に判断し、外部支援を活用しながらDXを推進できる」体制づくりをめざしてまいります。

# 令和6年度事業の報告

和歌山県・市町村DX専門プロデューサー  
（行政経営変革・人づくり担当） / 業務責任者  
戸塚 芳之





本県では、少子化・人口減少、大規模災害・感染症、社会全体のデジタル化など、中長期的な変化・リスクに的確に対応するため、令和4年4月に「和歌山県庁DX推進本部」を、同5月に「市町村DX推進部会」を新設し、『行政のあり方を全面的にデジタルを前提としたものへと移行する』DXを、県・市町村が一体となって推進することとした。これは、県と市町村が連携して、デジタル化(DXを含む)による行政経営変革を目指すものである。

この経緯から、令和5年度は、DX推進に係る市町村職員の認識共有・機運醸成を図り、各団体の現状把握と課題整理を行うことで、各団体のDXと県・市町村連携の促進を目指すことを目的として、「市町村行政DX推進に係る人材確保・育成支援業務」を実施し、各市町村のDX推進に係る現状と県・市町村連携におけるニーズを明らかにした。

その結果、各市町村において、DXを含むデジタル化やその前提となる行政経営変革において、認識共有・機運醸成を含む人材育成、組織や業務設計に係るサービスデザイン及び情報システムやデータ利活用等の基盤整備の必要性が確認された。また、県・市町村連携の枠組においては、情報・事例共有、合同研修、デジタルツールを活用したコミュニティ活性化等の協働・共創の取組や、国が関連分野で推奨する県と市町村連携も踏まえた共通の方針の必要性も確認された。

そこで、本業務では、「自治体DX全体手順書【第 2.1 版】」(総務省)、「人材育成・確保基本方針策定指針」(総務省)、「オープンデータ基本指針」(IT本部・官民データ活用推進戦略会議)等の政府の方針において、県と市町村の役割として期待されることを重点分野とした上で、**デジタル化(DXを含む)による行政経営変革と重点分野において、市町村職員の認識共有・機運醸成を図り、各団体の現状把握と課題整理を行うことで、各団体のデジタル化(DX含む)による行政経営変革の段階的な自立的取組の推進と県・市町村の協働・共創の促進を目指すことを目的とする。**



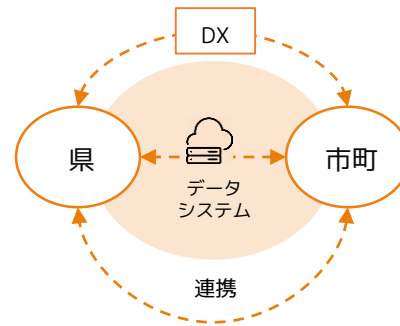
私たちが、「市町村行政DX推進事業に係る人材確保・育成支援業務」においてご提案する3つのモデルについてご説明します。これらのご提案は、私たちが今回の和歌山県様の公募に応募した理由であり、思いでもあります。今までの和歌山県様の市町村DXの取り組みも踏まえて、以下の3つのご提案をします。

## 進取の気性の県民性を活かし、県・市町村が、真のデジタル変革を実践するための人・組織・仕組づくり



### 地味でも着実な人・組織・仕組づくり

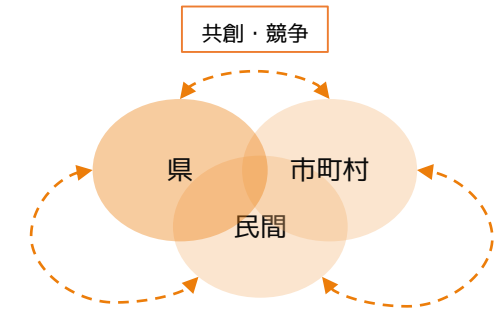
「デジタル敗戦」と国が認めたのは、2020年10月でした(当時のデジタル改革担当大臣)。2001年にe-Japan戦略で「世界最先端のIT国家になる」と宣言したにもかかわらず、なぜ我が国は負けたのでしょうか？それは、削ることのみで現状を維持しようとし、デジタル化の基盤となる人・組織・仕組づくりを軽視し、目先の「キラキラ」した取組ばかりを追い求めてきた結果です。現在、日本国中が「DX」の言葉に踊らされ、国の補助金・交付金目当ての「キラキラ」事業が花盛りです。大半の自治体が目先の「キラキラ」に踊らされている今だからこそ、**敢えて地味でも着実な人・組織・仕組づくりを支援すること**を提案します。真の「キラキラ」は盤石な土台の上で花開くと確信しています。



### 進取の気性による真のデジタル変革

和歌山県長期総合計画によると、2026年に89.4万人の人口を確保するとあります。しかし、推計人口から推測すると2023年中に目標値を割ることはほぼ確実です。この結果からわかることは、既存の手法の延長線上には、衰退しなく、抜本的な「変革」なくして、目指す未来は実現しないという現実です。「DX(デジタル変革)」とは、県民等がデジタル技術も活用して、県民本位の行政・地域・社会を再構築するプロセスです。技術導入自体が目的であっては決してなりません。和歌山県民には進取の気性があります。そこで、**既存の常識に捉われない、市町村連携による真のデジタル変革を視野に入れた事業**を提案します。

CoCo Consulting株式会社



### 県・市町村・民間“境界を超えた”きょうそう

デジタルの真骨頂は、あらゆる境界を無くして、人々を様々な制約から解放することです。これがデジタル技術が手段として変革を促進する所以です。また、DXは閉鎖的な組織からは生まれません。そこで、**県・市町村・民間等が、組織等の境界を超えて、価値創造と課題解消を目指す「共創」と、お互いを高め合える程よい「競争」を促す機運を醸成すること**を提案します。

県民みんなが楽しく暮らすために「世界とつながる 愛着ある 元氣な和歌山」を目指しましょう。



令和5年度の実施方針と実績を踏まえて3つのご提案をいたします。令和5年度の市町村へのアセスメントや評価面談において、システムの共同利用や職員の育成、県内市町村との情報交換の場を期待する声が寄せられ、県への期待がさらに高まったことが確認できました。この結果は、様々なステークホルダーと協力しながら変革を進めていくことの有効性が認識され始めたことの現れでもあります。このような観点は、これからの行政経営変革を進めるために大変重要な要素です。県より提示された重点分野とこれらを踏まえて、以下の3つのご提案をいたします。

## 県・市町村が、真の行政経営「変革」を実行し続けるための 人・組織・仕組づくり



### 人づくりから人材経営へ

令和5年度は「よろず相談」を通じて、市町村のデジタル関連部門の担当者や首長や副首町等を中心に現状把握と課題整理を行いました。アセスメントに基づき、DXの認識共有と機運醸成は進んだことが確認できましたが、変革意識を持った職員が孤立したり、首長の思いが職員に浸透できていなかったりといった状況も散見され、変革に結びつけられるような具体的な活動や継続的な動きに繋がることはまだ少ない状況です。

そのため、サービスデザインとチェンジマネジメントの考え方を導入し、目的を持って変革していける職員が組織で活躍できるような「動ける職員へカエル」「活躍できる組織へカエル」「つながる職員へカエル」といった、人づくりから人材経営までを視野に入れた人づくりを提案します。



### 伝統的な行政組織から 地域のクリエイティブな存在へ

令和5年度は、市町村との関係強化を進める中で、職員や組織の変革の種を見つけ、それらを育て、繋げる伴走支援の重要性を認識しました。これらの取組は、単独の組織や市町村内に留まるものではなく、全体を俯瞰し、適切な場所に必要な支援を提供することで、大きな変革を期待できます。また、人間中心・ユーザー本位のサービスデザインの考えを基に、令和6年度はチャットツールを活用した県・市町村の組織間のコミュニケーションを強化し、デジタルも使ったユーザー本位のサービスをデザインできる組織構築を進めます。これにより、伝統的な行政組織から地域のクリエイティブな存在へと進化し、和歌山県全域の発展に寄与することを目指します。



### 変化しない行政から 変化に強い行政へ

予測不可能な変化が起こる時代において、無謬性神話に縛られて変えられない行政から脱却し、変化に柔軟に対応できる行政への変革が求められています。変化をいち早く捉えて対応するためには、データで客観的に現状を把握し、迅速な意思決定を行うための仕組みが必要です。

さらに、この先の社会の大きな変化に対応するためには、県・市町村・民間等で組織を超えた連携体制が必要であり、多様なステークホルダー間で現状認識を合わせて合意形成を図ることのできる仕組みの構築が鍵となります。

市町村においてデータとテクノロジーを最大限に活用できる環境整備と、使いこなすことのできる人材育成を両輪で進められるように支援することで、言葉による“説得”ではなく、データによる“納得”で合意形成が進む和歌山の実現を目指します。



# 仕様書及び県との協議に基づく業務内容と進捗（2月末時点）



業務内容	進捗	目標値	実績値	単位	備考
<b>(1) 総合プロデューサー、専門プロデューサー及び伴走コンシェルジュの配置</b>					
ア：総合プロデューサーの配置	100%	1	1	人	
イ：専門プロデューサーの配置	100%	3	3	人	
ウ：伴走コンシェルジュの配置	100%	6	6	人	
エ：業務マネージャー及び業務スタッフの配置	100%	4	4	人	
<b>(2) 市町村への「よろず相談」の実施</b>					
ア：現状把握のアセスメントシートの作成	100%	30	30	市町村	
イ：「よろず相談」の実施					
・各プロデューサーヒアリング（前期）	100%	30	30	市町村	・プロデューサーがコンシェルジュを兼ねる場合は、月例オンラインよろず相談内でヒアリングを実施
・月例オンラインよろず相談	100%	360	360	回	原則として年間12回（希望しない市町村を除く）
・地域別オンラインよろず相談	100%	18	18	回	6振興局×3回
・分野別オンラインよろず相談	100%	8	8	回	デジタル社会推進課と実施
・各プロデューサーヒアリング（後期）	100%	30	30	市町村	・プロデューサーがコンシェルジュを兼ねる場合は、月例オンラインよろず相談内でヒアリングを実施
<b>(3) 重点分野に係る研修動画の制作</b>					
・動画の制作	100%	4	4	動画	重点3分野に加え、追加提案「働き方の再デザイン」の4分野
<b>(4) 次年度の市町村行政DX推進事業に係る提案等</b>					
・次年度の市町村行政DX推進事業に係る提案	100%	1	1	件	
・チャットツールを活用したコミュニティ醸成	100%	30	30	市町村	
<b>(5) 自由提案</b>					
・専門アドバイザーの配置	100%	1	1	人	
・合同研修会の実施	100%	1	1	回	
・合同視察の実施支援	100%	1	1	回	
・公開型の成果報告会の実施	0%	1	0	回	
・市町村の状況のデータベース	100%	1	1	構築	



## 専門プロデューサー



### 戸塚 芳之

業務責任者・専門プロデューサー(行政経営変革・人づくり担当)・伴走コンシェルジュ

CoCo Consulting株式会社 事業部門執行役員

元掛川市役所DX推進課デジタル支援係長、CodeforKakegawa 代表理事。掛川市役所では、企画政策課、財政課、DX推進課、IT政策課、国保年金課、出納室等において市民との直接の窓口から総合計画策定、DX推進計画策定、定員管理計画策定、企業との官民連携、SDGs未来都市等の行政経営、職員に対する変革を進めるための研修等も担当。

市役所以外にも静岡県や地方公共団体情報システム機構(J-LIS)への派遣経験もあり、コンビニ交付やオープンデータ、BPR等の全国展開にも従事。

併せて民間企業において窓口業務のBPOやオンライン申請等、住民や職員への効率的かつ効果的な窓口づくりの支援を実施。

2024年2月に新宮市のお燈まつりに参加。

情報セキュリティマネジメント試験合格 令和5年度市町村行政DX推進事業に係る人材確保・育成支援業務(情報システム担当)



### 前田 聡一郎

専門プロデューサー(サービスデザイン・組織づくり担当)・伴走コンシェルジュ

CoCo Consulting株式会社 事業部門 プロデューサー

株式会社 Idea Craft 代表取締役、愛媛県デジタル総合戦略策定業務グラフィックデザイン担当、愛媛県・市町DX推進専門官、

愛媛県DX推進リーダー育成支援等業務プロジェクトマネージャー、福島県磐梯町において地方公共団体のDXに係る計画の策定に携わる。

磐梯町CDO補佐官としてマニフェスト大賞優秀賞受賞。

神奈川県座間市デジタルトランスフォーメーション推進支援業務プロジェクトマネージャー

今までの経験から、戦略の策定、業務改革支援、ワーキンググループの支援、ワークショップの開催、DX推進リーダーやDX推進員への研修計画策定及び研修、DXに必要なサービスデザインに関する研修、全体的または役職別のDX人材育成計画作成支援を担う。

情報セキュリティマネジメント試験合格



### 下山 紗代子

専門プロデューサー(テクノロジー・仕組みづくり担当)・伴走コンシェルジュ

CoCo Consulting株式会社 事業部門 プロデューサー

一般社団法人リンクデータ 代表理事、デジタル庁オープンデータ伝道師、愛媛県・市町DX推進専門官、三重県デジタル推進フェロー、

総務省地域情報化アドバイザー、インフォ・ラウンジ株式会社 取締役、武蔵大学非常勤講師、Code for YOKOHAMA 副代表/CBO。

バイオインフォマティクス系ベンチャー、理化学研究所を経て、一般社団法人リンクデータを設立。オープンデータ支援プラットフォーム「LinkData.org」を

運営。女性初の政府CIO補佐官を経て、国や自治体におけるデータ活用の支援や、民間企業におけるデータ活用ビジネス、教育・シビックテック分野等において幅広く活動中。

応用情報技術者試験合格 令和5年度市町村行政DX推進事業に係る人材確保・育成支援業務(総括アドバイザー)



## 総合プロデューサーと伴走コンシェルジュ等



### 菅原 直敏

総合プロデューサー・伴走コンシェルジュ

CoCo Consulting株式会社代表取締役、合同会社CoCo Socialwork代表社員、ソーシャルワーカー(保有国家資格：社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、保育士、公認心理師)、磐梯町副町長(4月1日より)、旅人

磐梯町最高デジタル責任者、愛媛県・市町DX推進統括責任者等を歴任し、我が国の自治体DXの黎明期より、認識共有・機運醸成、全体方針決定、推進体制の整備、DXの取組の実行及び都道府県による市区町村支援の全ての段階において、国やメディア等に事例として取り上げられる高いレベルの事業・プロジェクトを設計し、実践する。また、民間企業においてもCDO、CISO、CTO等を歴任し、組織全体のシステム設計等を行なった経験を持つ。市議会議員、県議会議員を無所属で5期務めた経験も有するため議会、行政(基礎自治体、広域自治体)双方について広く・深い見識をもつ。

情報セキュリティマネジメント試験合格 令和5年度市町村行政DX推進事業に係る人材確保・育成支援業務(総括アドバイザー)



### 元山 文菜

伴走コンシェルジュ

株式会社リビカル 代表取締役、総務省 経営財務マネジメント強化事業 自治体DXアドバイザー

(株)サクラクレパスに入社し、商品企画部プロダクトマネージャーとして活躍。2008年、富士通(株)に転職し、営業管理業務のプロセスアウトソーシング(事務処理代行)やプロセス改善など歴任。2017年2月に独立起業(株)リビカル代表取締役。バックオフィス業務全般に対するBPR(ビジネスプロセスリエンジニアリング)コンサルタントとして活動。BPOやRPAの導入支援。組織目標を明確にし、各業務を属性別に分析、適切な業務設計および組織構造を構築することで、経営効率の向上、利益体質の組織を設計する。自治体に向けたセミナー研修など幅広く活動中。BPIE認定番号00680231 ビジネス・プロセス革新エンジニア。共著「業務改善の問題地図 ～「で、どこから変える？」～進まない、続かない、だれトク改善ごっこ」(技術評論社)

ITパスポート試験合格 令和5年度市町村行政DX推進事業に係る人材確保・育成支援業務(BPR担当)

※上記のプロデューサー、伴走コンシェルジュ以外に伴走コンシェルジュ7名、専門アドバイザー2名、業務マネージャー1名、業務スタッフ4名を配置しています。

## (2) 市町村への「オンラインよろず相談」の実施



「オンラインよろず相談」については、令和5年度事業のアセスメントやよろず相談の状況を踏まえ、それぞれの市町村の個別事情に合った支援を実施しました。アセスメントシートを活用し、状況を継続的に把握し続けるとともに、オンラインよろず相談を月例で行い、令和5年度を通して構築した関係性を維持した上で、前年度以上に支援できる機会を増やし、行動に移せるよう伴走支援しました。

また、各振興局やデジタル社会推進課等と連携した地域別・分野別よろず相談も実施することで、広域での情報共有や機運醸成につながる支援にも取り組みました。さらに、各プロデューサーのオンラインヒアリングも以下の通り実施しました。

加えて、これらのベースとして、チャットツールを活用した相談・助言も随時実施しました。

	アセスメントシート	オンラインよろず相談	地域別よろず相談	分野別よろず相談	各プロデューサーヒアリング
時期目安	4月中旬～5月上旬	月例：月1回 任意：年3回まで	年3回程度(振興局単位)	3ヶ月に1回程度	総合：各市町村へ年1回(30回) 専門：前市町村へ年2回(60回)
目的	現状把握 支援分類の精緻化	仕様上の各種支援の実施	市町村と各振興局との本事業にかかる認識共有、機運醸成、関係性構築、情報と事例の共有及び次年度に向けた協働の基礎構築等	市町村とデジタル社会推進課との本事業にかかる認識共有、機運醸成、関係性構築、情報と事例の共有及び次年度に向けた協働の基礎構築等	次年度の市町村行政DX推進事業への提案のための現状把握等
対象	全市町村	全市町村	振興局単位の市町村	全市町村担当者	全市町村担当者
参加者	フォーム対応のため特になし	伴走コンシェルジュ、業務マネージャー・スタッフ 各プロデューサー(任意) 行政企画課職員(必須)	担当地域の伴走コンシェルジュ、業務マネージャー・スタッフ 各プロデューサー(任意) 県振興局職員(必須)	担当分野の専門プロデューサー 伴走コンシェルジュ、業務マネージャー・スタッフ、デジタル社会推進課職員(必須)	各プロデューサー、業務マネージャー・スタッフ 県職員(任意)
内容	自治体DX全体手順書の4段階と分野に分けた質問シートに回答を求め、定量的な状態を把握。また、自由記入欄を設け、定性的な情報も入手。内容は、県と協議の上、決定。	市町村に合わせた支援を行うため、アセスメントシートや昨年度の要望等を参考に毎月定期的実施。毎月行うことで、DX関連部署だけではなく、他の部門も巻き込んだ深い支援を行う。	広域での取り組みに進化していきけるよう各振興局とともに振興局単位での情報交換や支援を行う。振興局単位での連携のきっかけづくりを行う。	地域・産業DXでの取り組みに進化していきけるようデジタル社会推進課と市町村との情報交換や支援を行う。分野ごとでの連携のきっかけづくりを行う。	次年度の市町村行政DX推進事業への提案のための現状把握等を行う。プロデューサーがコンシェルジュを兼ねる場合は、オンラインよろず相談内で実施。
方法	Webフォーム	オンライン	オンライン	オンライン	オンライン

## (2) 市町村への「オンラインよろず相談」の実施 ア：現状把握のアセスメントシートの作成



### ■ 設計方針

総務省「自治体DX全体手順書【第2.1版】」において規定されている4ステップの内容に沿って各市町村のDXの進捗を比較できるように設問を設計。

[https://www.soumu.go.jp/main\\_content/000857188.pdf](https://www.soumu.go.jp/main_content/000857188.pdf)

上記に加え、重点分野、抱えている問題を尋ねる設問を追加。

### ■ 調査の概要

調査名:和歌山県市町村DXに関する調査

回答収集方法:Webフォーム(Googleフォーム)

回答者:各市町村のDX担当者

調査期間:2024年4月22日～5月7日

設問数:全66問

回答率:100%(30/30 市町村)

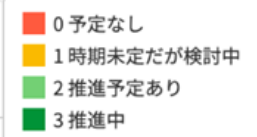
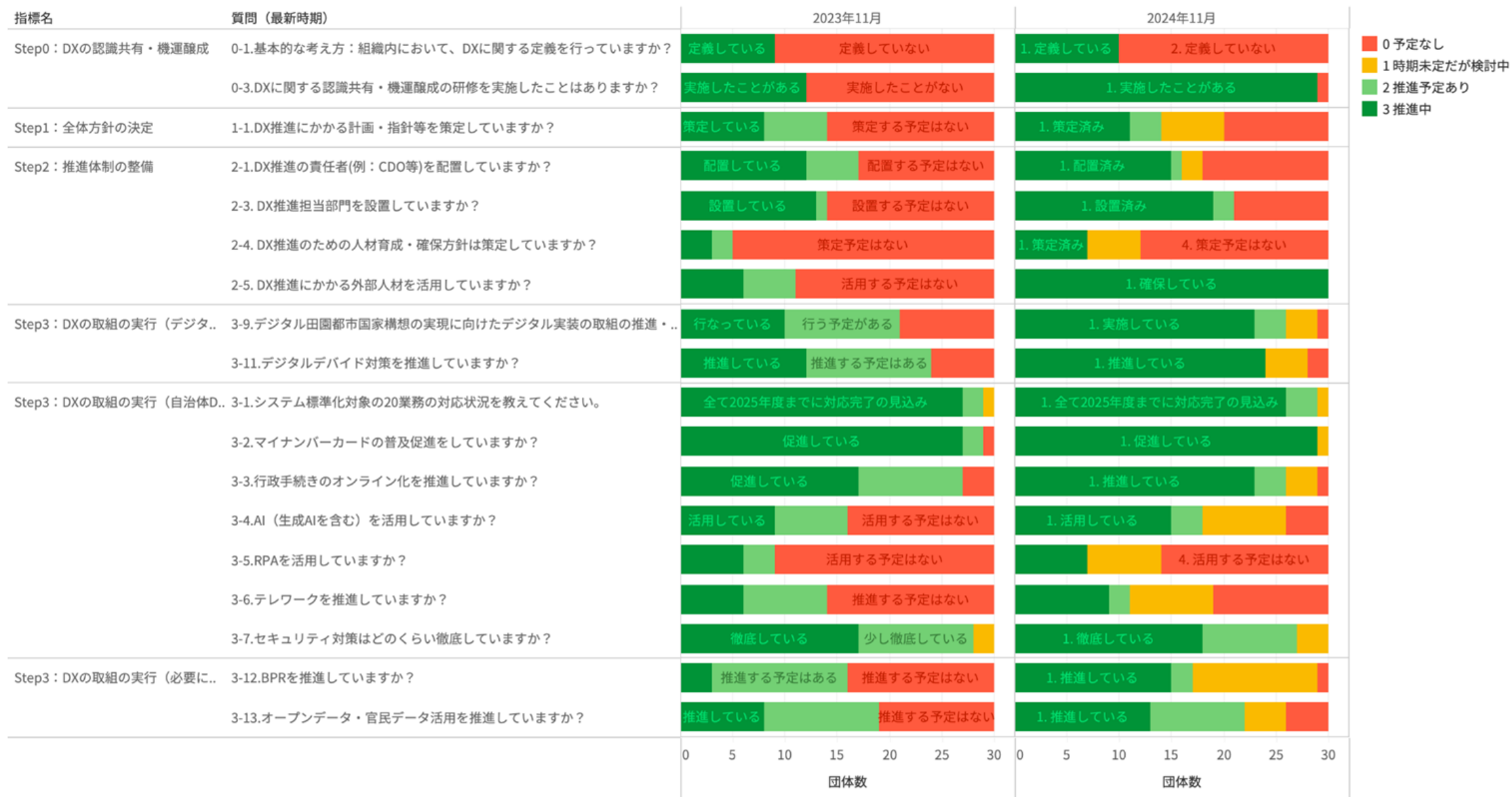
2024年11月から12月のよろず相談にて自治体DX全体手順書からの設問に関する変化を確認し、精査。

(重点分野は2月のよろず相談にて確認)

# (2) 市町村への「オンラインよろず相談」の実施 ア：現状把握のアセスメントシートの作成



## アセスメントの結果（昨年度時点との比較）



## (2) 市町村への「オンラインよろず相談」の実施 ア：現状把握のアセスメントシートの作成



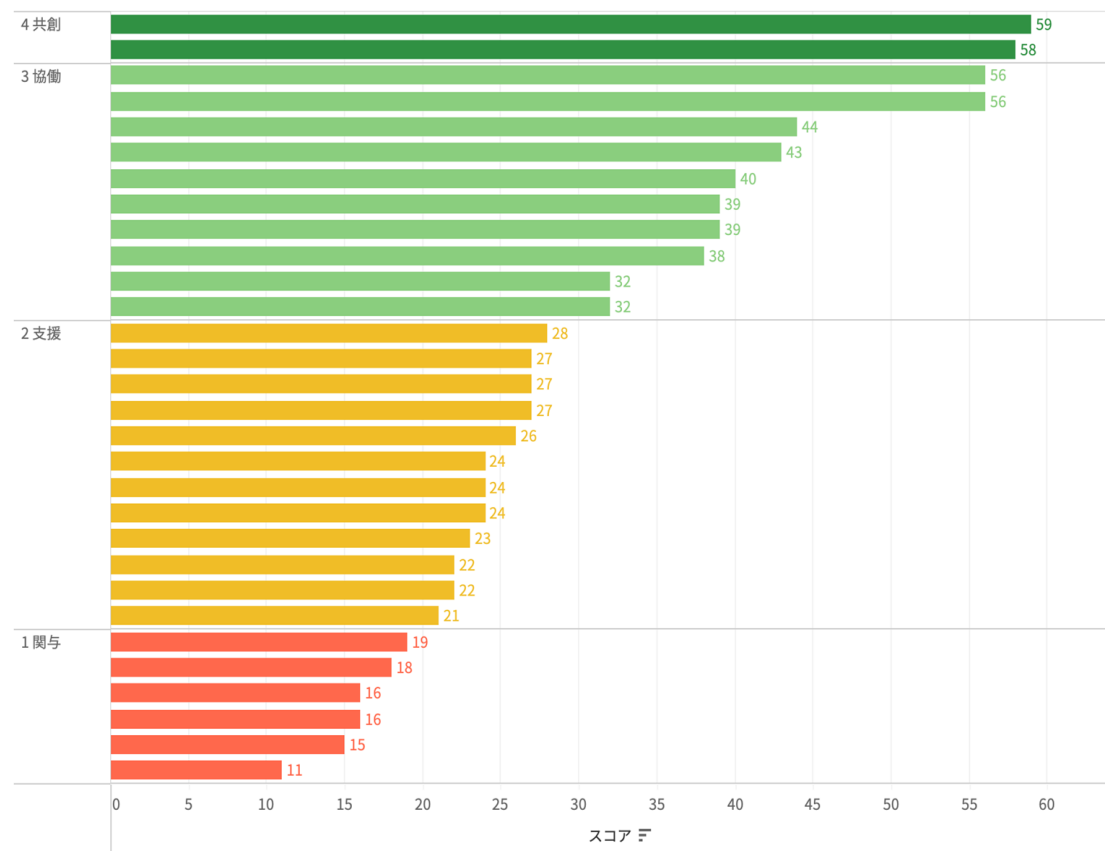
### 支援分類別自治体数

支援分類	2023年11月	2024年11月
4 共創	2	6
3 協働	10	22
2 支援	12	2
1 関与	6	

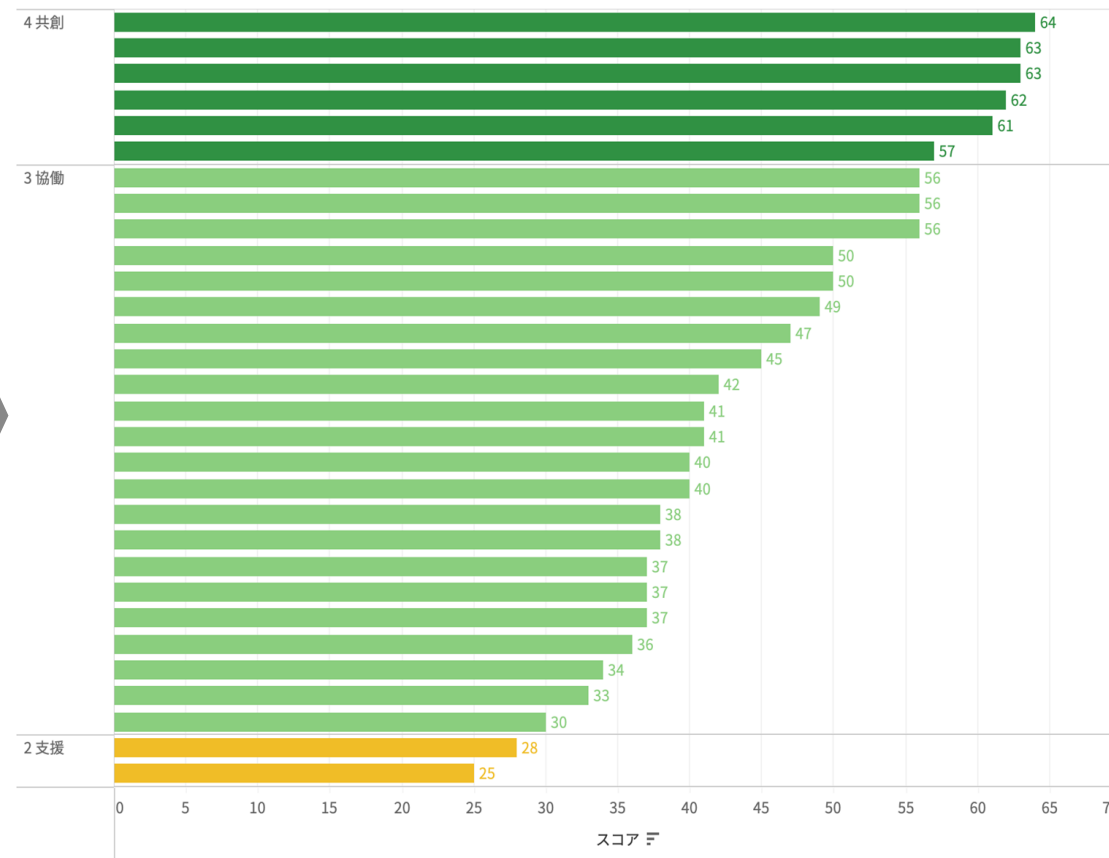
#### ■ 総合スコア算出と支援分類の決定

- 各設問の回答別にスコアを算出し、市町村毎に合計した「総合スコア」を算出
  - 総合スコアの基準値に基づき支援分類を決定
- ※手法の詳細は別紙「支援分類の考え方」を参照

支援分類（R5年度11月時点、市町村名秘匿）



支援分類（R6年度11月時点、市町村名秘匿）



## (2) 市町村への「オンラインよろず相談」の実施

### イ：「オンラインよろず相談」の実施（プロデューサーヒアリング）



#### 実施概要

- 期間：2024年5月
- 方法：オンライン（Zoom）
- 時間：1時間
- 対象：30市町村
- 参加者：市町村のDX担当職員、県行政企画課職員、専門プロデューサー、伴走コンシェルジュ、業務スタッフ
- 内容：自己紹介、アセスメントシートの回答内容に基づきDXの詳細な取り組み内容をヒアリング





## (2) 市町村への「オンラインよろず相談」の実施

### イ：「オンラインよろず相談」の実施（月例オンラインよろず相談）



#### 実施概要

- 期間：2024年6月～2025年2月
- 方法：オンライン（Zoom）
- 対象：30市町村
- 時間・回数：1時間×10回
- 参加者：市町村のDX担当職員・県行政企画課職員・各振興局担当職員・専門プロデューサー・コンシェルジュ・業務スタッフ  
※内容に応じて市町村の原課職員も参加
- 内容：自治体の実情や課題に合わせてその都度設定



## (2) 市町村への「オンラインよろず相談」の実施 イ：「オンラインよろず相談」の実施（地域別よろず相談）



### 実施概要

- 期間：2024年6月～2025年2月
- 方法：現地 / オンライン（Zoom）
- 時間：1時間～2時間
- 参加者：市町村のDX担当職員・県行政企画課職員・各振興局担当職員・総合プロデューサー・専門プロデューサー・コンシェルジュ・業務スタッフ
- 内容：DX推進や情報システム関連業務の相談、各団体のノウハウや情報の共有、広域で進めたい取り組みのアイデア出し、勉強会等



日高：第1回地域別よろず相談 2024年7月12日（金）13:00 - 14:00 @日高振興局/オンライン  
テーマ：「日高地域・広域でできたら良いなと思っていること」

入札参加資格の統一	御坊市のDX研修を他市町村に展開	オンライン申請の庁内展開	LoGoフォームのノウハウ共有	課員にDXを浸透させるノウハウの共有	コンビニ交付の推進の相談
<p>日高川町：加藤さん</p> <p>過去に土木の方で検討したことがあった</p> <p>土木/物品/役務で審査内容が異なる？</p> <p>県で統一できないか</p> <p>登録事業者情報が県・市町村共通で見れるシステム</p>	<p>御坊市：中村さん</p> <p>昨年度御坊市では全職員対象に中村さんが研修→日高の他の市町にも中村さん研修対応か</p> <p>全職員対象、30分間、DX研修と言いつつデジタルの話はしない</p> <p>Q: 県に対しても可能？ A: 可能</p> <p>業務として行けるか確認→お互い講師ができるようになるとベスト</p>	<p>日高川町：三原さん</p> <p>他の市町村で何を使っているか、どう使っているか情報共有したい</p> <p>日高川町ではLoGoフォームを使っている、どんな申請に使っているのかわりたい</p> <p>みなべ町：職員採用フォームで活用 <a href="https://logoform.jp/form/4UUo/404021">https://logoform.jp/form/4UUo/404021</a></p> <p>御坊市：オンライン申請が増加、4割→6割に増えた</p>	<p>みなべ町：滝川さん</p> <p>添付書類は写真でもOKなのか？ →日高管内で一緒に導入すれば行けるのでは</p> <p>電子データを原本として扱える根拠法があったはず →要確認</p> <p>御坊市での広め方：トラスバンクさんの方で提供された利用例を展開して、最初だけ作ってあげた</p>	<p>由良町：岡田さん</p> <p>今年度からDX担当、原課にDXを浸透させるためのノウハウを知りたい</p> <p>自分も普段挨拶文にChatGPT使ったりしていたが、DXはピンときていなかった</p> <p>毎月よろず相談に各課の職員さんも参加してもらおうと思っている</p>	<p>美浜町：加藤さん</p> <p>美浜町でも導入を検討している。導入に踏み切ったきっかけを聞きたい。</p> <p>日高川町：費用面から実現性を検討した</p> <p>御坊市：マイナンバーカード交付率が80%を超えてきたことから検討、コンビニ交付平均160件/月、楽になった</p> <p>Q: 手数料は窓口と同じ？ A: 御坊市では同じにしている A: みなべ町も同じ</p>

### NEXT STEP

第2回：相談や情報共有のテーマを事前にSlackの #025\_日高振興局で募集し、各市町村さんからのテーマ持ち込み形式で開催

# (3) 重点分野に係る研修動画の制作



県・市町村の職員に対し、重点分野である「行政経営変革・人づくり」、「サービスデザイン・組織づくり」、「テクノロジー・仕組みづくり」に係る認識共有・機運醸成について、研修プログラムを設計し、研修動画の提供を行いました。

## 行政経営変革・人づくり

## サービスデザイン・組織づくり

## テクノロジー・仕組みづくり

## 働き方の再デザイン

### 研修内容

公務員のこれからの「人づくり」  
～「人材育成・確保基本方針策定指針」から読み解く～

### 研修内容

- デザインとDX 大事な根っこは一緒 ユーザー本位に考えよう
- もう実務でも使われています! サービスデザイン思考ツールで、推論力をアップデート

### 研修内容

- データとは何なのか?
- 何のためにデータを使うのか?
- データに基づく判断で政策を改善するには

### 研修内容

みんなにやさしい「脱デジタル宣言」  
～「旅する」副町長による働き方を再デザインする磐梯町の挑戦～

01 人材育成・確保基本方針策定指針とは

26年ぶりに改定されました!

- 総務省において、各地方公共団体における人材の育成に関して、平成9年に「地方自治・新時代における人材育成基本方針策定指針」を策定し、指針で示された留意・検討すべき事項を踏まえ、各地方公共団体において人材育成に関する基本方針が策定・改正。
- 総務省が、「ポスト・コロナ期の地方公務員のあり方に関する研究会」の報告書(令和5年9月)や第33次地方制度調査会答申(令和5年12月)の内容を踏まえ、「人材育成」「人材確保」「職場環境の整備」を総合的に図る観点から、現行の指針を全面的に改正し、各地方公共団体が基本方針を改正等する際の新たな指針として、「人材育成・確保基本方針策定指針」を策定、公表。

CoCoConsulting株式会社 3

サービスとはデザインされるものだ!

どういうこと?

ケーキ屋さんから出てくる二人の違い  
片方は「上機嫌」もう片方は「不機嫌」  
これは偶然...ではなく

CoCo Consulting Idea Craft

07 人材育成・確保基本方針策定指針の活用

- 公務員を取り巻く状況は大きく変わってきている。
- このままでは、職員は減少、サービス維持は困難。変わっていくことが維持していくこと。
- 人づくりだけでなく、全庁での人材確保をしていくことが重要。
  - 首長の強いコミットメントと、人材育成・人事担当部局と担当部局との連携
- 確保の仕方はさまざま。
- 業務を把握し、誰に何を依頼するのか明確にすることが重要。
  - 高度専門人材やDX推進リーダーのように
- 1人の職員が担当部局等の業務を全て担うことにならないように組織で対応できるように。

CoCoConsulting株式会社 64

我こそはDX界の救世主なり

意味分かんねー

レス遅いー

使いづれー

ギャップすごい

「データ寺子屋」とは

寺子屋とは、江戸時代の上方において、寺塾に比喩する町人の子弟に読み書き・計算等を教えた学問施設

この寺子屋が江戸時代の人々の高い識字率を支えていた

「データ寺子屋」は令和の時代の社会人の必須「テララー」である「データリテラシー」を学べる研修プログラム

寺子屋のイラスト

Copyright © Nao SUGAWARA all right reserved.

データに基づかない施策は民間療法と同じ

データを活用せずに、経験や慣例のみで施策を進めるのは、民間療法で病気を治そうとするようなもの

Illustration of a person being treated with a large hammer

Copyright © Nao SUGAWARA all right reserved.

「働き方の再デザイン」とは?

得業像2：働き方の再デザイン～いつでも、どこでも、誰とでも～

従来で業務に似た業務職が、それぞれのライフスタイルとライフステージに応じて、自分らしくやりがいを持って働き方を再デザインし、実現します。そのために、いつでも、どこでも、誰とでも働ける業務職職を構築します。このことにより、例えば、好きな職員が、世界各地を自由に移動できるということが実現します。

「いつでも」の観点については、テレワーク(在宅勤務、サテライトオフィス勤務、リモートワーク等)を希望する職員が選ばれる仕組みを構築します。目的は、業務時間外メインテナンス時間中は、クラウドサービスが活用できること、ゼロコストで働き方を切り替えられること(業務時間外勤務)です。

「どこでも」の観点については、移動を促進するために職員の居住地を超えて、プロジェクトベースでの任務を必要とする職員の確保です。同時に、従来の職員の居住地からの移動や出張へのコストの負担を行います。

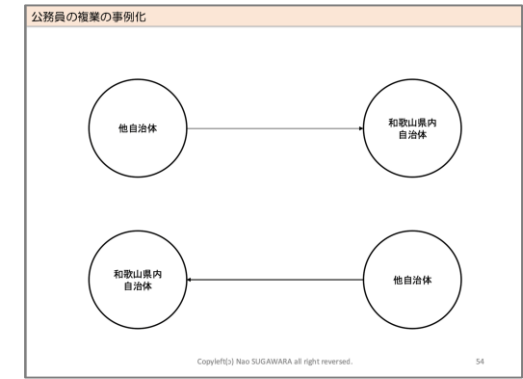
また、この働き方を推進する上で重要なことは、職員の居住地を問わずにサービスを受けること、健康増進、業務効率化、生産性の向上といった従来の業務職の強みの発揮を促します。したがって、業務がどこでも実現できるように業務職の確保には注力します。ただし、中長期にわたる「どこでも」の働き方を推進することで、結果的に業務職、業務効率化、生産性の向上を実現します。

また、職員の居住地、特に生活環境の確保も重要です。多くの場合において業務職の確保に資する場合があります。

以上より、子どもの時間を確保しながら、介護しながら、大学に通学しながら、多岐なライフスタイル、ライフステージに合わせた働き方が実現します。また、この働き方を推進することで、自分らしく働きがいのある人材の確保が実現し、業務職の働き方に関する課題が解決されることを期待します。

出典：「磐梯町デジタル変革戦略第2版」、89

Copyright © Nao SUGAWARA all right reserved.



## (4) 次年度の市町村行政DX推進事業への提案等：チャットツールを活用したコミュニティ醸成



共創・協働を進めていくには、日頃からの継続的なコミュニケーションと情報収集が不可欠です。特に調整業務が多岐にわたるデジタル関連部門の職員は内部での孤立を避け、横断的な連携をしていくことが求められます。そのため本事業においては、単にチャットツールを導入するだけでなく、チャットでのコミュニケーションが円滑となるよう、データとデザインの観点を用いて、使い方やコミュニケーションのルールの浸透等をサポートしました。

その結果、県・市町村・民間メンバー合わせて129名が参加し、月間のアクティブユーザーはうち101名という非常に高いアクティブ率でコミュニケーションが活発に行われました。

### チャットツールの活用例

# 001\_事務局アナウンス

Messages Add canvas Files Bookmarks Pins +

November 5th, 2024

坂本祐里\_和歌山県行政企画課 @channel 10:39 AM

【市町村DX合同研修のきのくに21での放映について】  
10月10日に開催しました「市町村DX合同研修」について、和歌山県広報番組「きのくに21」の特集コーナーで放映されます👏

@菅原直敏\_和歌山県市町村DX総合プロデューサー\_福島県磐梯町旅する副町長  
や、@中村洋輔\_御坊市総務課情報化イノベーション推進室 のインタビューもありますので、皆様ぜひご覧ください🌟

放送日 : 令和6年11月10日(日) 9:30~10:00 (再放送: 同日 18:00~18:30)  
番組情報: <https://www.tv-wakayama.co.jp/bangumi/kinokuni21/>  
※放送後、和歌山県公式youtubeチャンネルにもアーカイブ掲載されます。  
<https://www.youtube.com/playlist?list=PLQrlmY4eG9XtojXX5EzXfaHn-SEYHEdhh>

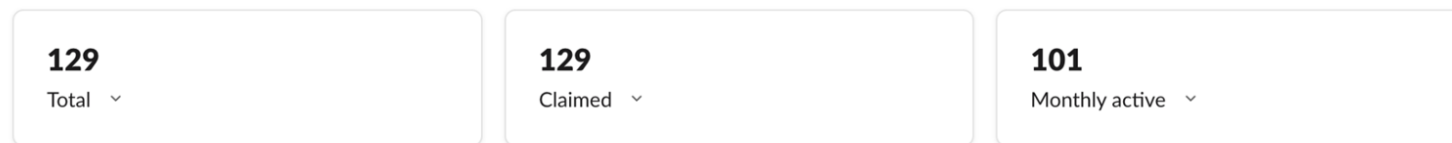
YouTube  
きのくに21 令和6年度  
和歌山県で進められている事業や、暮らしに大切な情報、県内各地の魅力などさまざまな情報を、わかりやすくお伝えする番組です▼テレビ和歌山 毎週日曜日 午前9時30分~午前10時 (再放送)午後6時~午後6時30分

8 1 3 1 1 1 1

7 replies Last reply 4 months ago

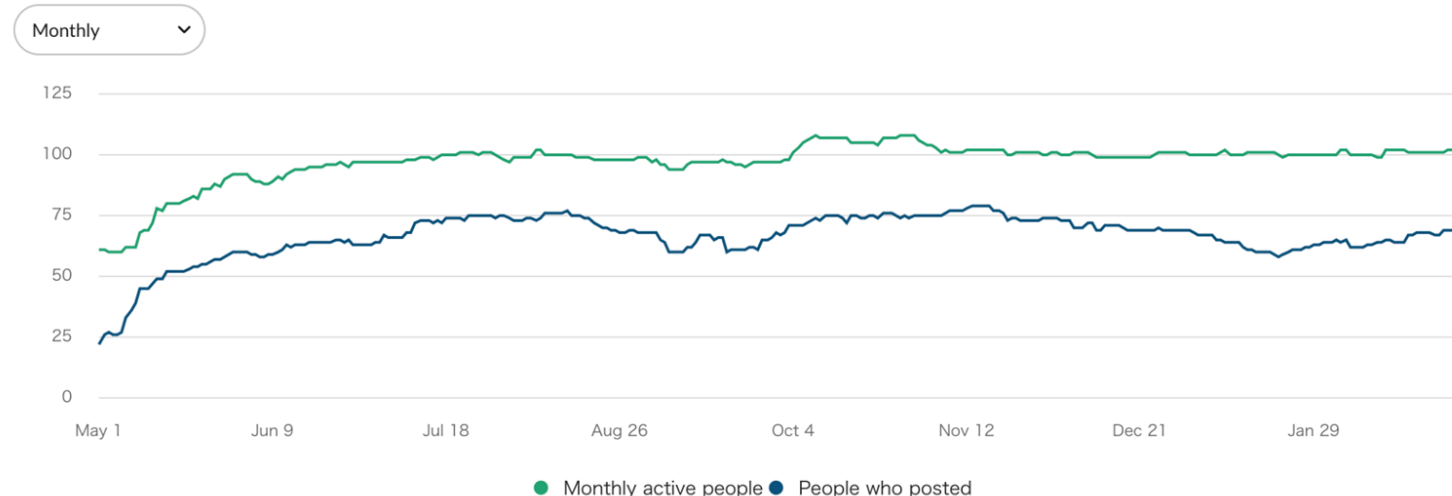
### チャットツールのアクセス解析データ

#### Membership



#### Active people in your workspace

See how many people are active — meaning they posted a message or read at least one channel or direct message. To see billing numbers, go to the [Billing Overview](#) page.



# (5) 自由提案①：専門アドバイザーの配置と制度活用支援



## 制度活用支援の実績

菅原総合プロデューサーをはじめ、配置している全プロデューサーが国の人材派遣制度にアドバイザーとして登録をしています。そのため、本年度も国制度を活用した訪問支援を実施しました。また、よろず相談の中で必要に応じて適切な支援のできる外部アドバイザーの紹介も行いました。（計：19団体、延べ43名）



和歌山県\_R6年度経営・財務マネジメント強化事業申請状況（2024-12-25時点）

都道府県名	団体名	0	1	2	3	4
和歌山県	和歌山県かつらぎ町	森 亮二	元山 文菜	玉橋 尚和	前田 聡一郎	
	和歌山県すさみ町	齋藤 理栄	戸塚 芳之	菅原 直敏		
	和歌山県印南町	桂川 将典	下山 紗代子			
	和歌山県海南市	下山 紗代子	菅原 直敏			
	和歌山県岩出市	森 亮二	玉橋 尚和	前田 聡一郎		
	和歌山県紀美野町	菅原 直敏				
	和歌山県串本町	中村 洋輔				
	和歌山県古座川町	馬場 啓太	戸塚 芳之			
	和歌山県御坊市	宮崎 昌美	岡田 豪			
	和歌山県広川町	森 亮二	玉橋 尚和			
	和歌山県新宮市	中村 洋輔	下山 紗代子			
	和歌山県太地町	馬場 啓太	戸塚 芳之	玉橋 尚和		
	和歌山県湯浅町	森 亮二	前田 聡一郎			
	和歌山県那智勝浦町	馬場 啓太	前田 聡一郎			
	和歌山県日高川町	下山 紗代子				
	和歌山県白浜町	菅原 直敏				
	和歌山県美浜町	中村 景一	前田 聡一郎	下山 紗代子		
	和歌山県有田川町	森 亮二	桂川 将典	玉橋 尚和	前田 聡一郎	
	和歌山県和歌山市	古川 泰人	前田 聡一郎	下山 紗代子		

## (5) 自由提案①：専門アドバイザーの配置と制度活用支援



下記のとおり国制度を活用し、アドバイザーを派遣し、研修やワークショップを実施しています。オンラインよろず相談やチャットツールを活用し、必要な研修を必要な時期に開催することができました。

研修メニュー	概要	実施団体
「やめること」から考えるDXワークショップ	ECRSのフレームワークを用いた業務改善のプロセスを体験し、DXの考え方も取り入れながら、理想の働き方や新しい行政サービスを実現するイメージを掴んでもらうためのワークショップ。	美浜町(10/29)、有田川町(11/27)、かつらぎ町(12/18)、北山村(11/28)、岩出市(1/22)
なぜ、今DXなのか～「職員」や「住民」が幸せになるための話～	市職員が2040年には半減している状態になるということを解き、それに向けて今、職員がどうしていかなければならないのかを考える研修。職員が職員に話をすることで共感が得られ、納得し、動き出す職員が多く現れた。	日高振興局(10/28)、由良町(8/23)、串本町(1/22)、新宮市(2/12予定)
データ利活用研修	データを利活用するための基本的な知識を習得し、悪いデータの状態を理解することで、より良い利活用を進める研修。悪いデータを供養するという手法を取ることで、難しいデータ形式をより楽しく学ぶことができる。	和歌山市(8/15 1/31)、新宮市(11/14)
QGISの基礎的な説明+実習	誰でも自由に使える無性のGIS、QGISの基礎的な説明と実習をすることでGISの知識を深めることができる。	和歌山市(12/4)
サービスデザイン研修	DXの根幹となる考え方でありながら理解されにくい概念である「サービスデザイン」を、座学とワークショップを組み合わせることで分かりやすく体得的に学べるようにした研修。	岩出市(10/1)、有田川町(10/1)、和歌山市(10/28)、有田市(10/30)、那智勝浦町(1/20)
行政経営変革の課題とその克服手法について	行政経営改革に関するどこの自治体でも起きうる課題とその克服手法について解説する研修。	岩出市(11/27)、広川町(12/17)
BIツールに触れて2024秋～海草・那賀地域編～	BIツールの基本的な使い方を習得し、データ可視化の有効性やポイントを学ぶ研修。	海草振興局、那賀振興局(11/8)

## (5) 自由提案②：合同研修会の実施



市町村の職員同士の関係性構築から連携が生まれ、共同化や広域化の事業に繋がることを期待した、市町村職員参加の合同研修会を実施しました。

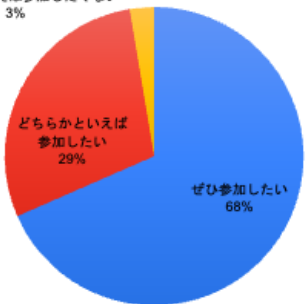
昨年度は紀北・紀南と会場を分けて実施しましたが、令和6年度は同一会場にて合同研修を開催し(写真下)、ほとんどの市町村が参加しました。研修では、各市町村の取組の事例発表や合同視察の成果発表、ワークショップなどを行いました。実施後、「横のつながりができて良かった」「前向きな話ができモチベーションが上がった」「他自治体の発表が業務の参考になった」等、参加者からは高い評価をいただき、円滑なコミュニケーションにつながりました。

参加者 : 39名  
参加団体 : 24団体  
開催日時 : 2024年10月10日 (木)  
開催会場 : Big U (田辺市)  
プログラム :  
10:30 - 10:45 開会  
10:45 - 12:15 事例発表  
12:15 - 13:45 休憩 それぞれのまちの紹介  
13:45 - 14:30 合同視察の報告  
14:30 - 14:45 休憩  
14:45 - 16:45 ワークショップ  
16:45 - 17:00 閉会



### 今回のような研修に今後も参加したいですか？

どちらかといえば参加したくない  
3%



■ぜひ参加したい  
■どちらかといえば参加したい  
■どちらかといえば参加したくない  
■絶対に参加したくない

97%以上の参加者が「参加したい」と評価

## (5) 自由提案③：合同視察の実施支援



福島県磐梯町では、DXの推進に関連する先駆的な取組を進めてきましたが、今年度からは、町総合計画後期基本計画に基づき、「町民のしあわせ再デザインプロジェクト」に取り組まれており、その一環として、「行政視察の再デザイン」にも取り組んでいます。

3日間の視察の行程では、佐藤磐梯町長から本年度の磐梯町の主要事業説明、菅原副町長から「町民の幸せ再デザインプロジェクト」の沿革・現状・展望の説明、電子地域通貨「ばんだいコイン」の利用体験など、多彩なプログラムを通じて磐梯町の取組を実体験していただきました。

参加者：16名

参加団体：和歌山県・和歌山市・海南市・御坊市・岩出市・九度山町・高野町・日高川町・すさみ町・那智勝浦町

開催日時：2024年7月3日（水）～5日（金）

### 参加者満足度

プログラムの最後には、視察内容の満足度や改善点を定量的に集計かつ定性的に集約するため、参加者アンケートを記入のうえ、磐梯町職員も交えた意見交換や振り返りを行いました。

（10点満点中で評価し、回答の平均値）

合同視察全体の満足度

**8.8 / 10**

今回の視察を未参加者に勧めたい度

**9.1 / 10**



磐梯山をバックに参加者と役場職員で



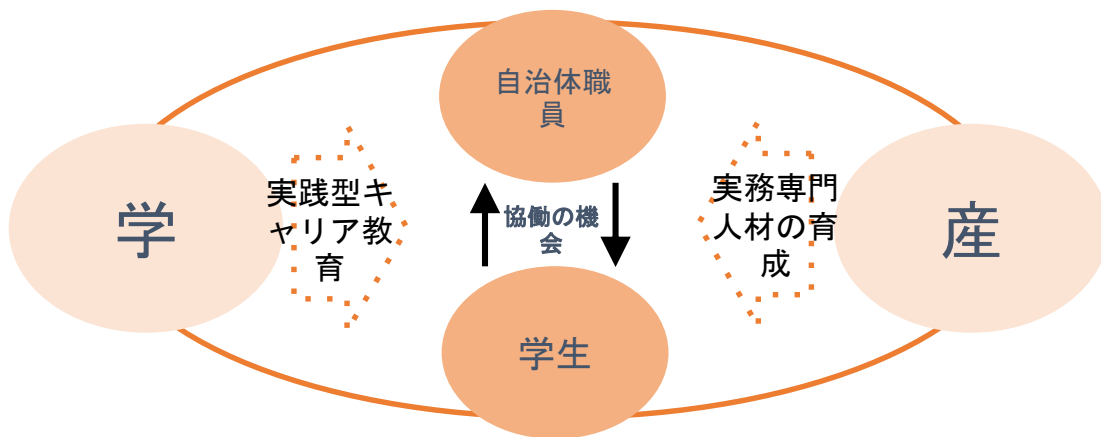
## (5) 自由提案⑤：②県内大学生の参画



県内人材の地産地消の取組の一環として、和歌山大学と連携し、市町村行政におけるDX推進の担い手育成を目的に、学生のキャリア形成プログラムを実施します。和歌山大学にて学生を対象として、菅原総合プロデューサーによる特別講演を実施しました。



「働き方の再デザイン」を主なテーマとした特別講演を開催



実施スキーム図

前期集中講義  
「地域データ活用法」特別講演

# 市町村DXの現在と未来

デジタル田園都市国家構想を中心とした国のDX推進計画によって、地域行政においても住民サービスの在り方や職員の働き方が大きく変わろうとしています。市町村DX推進における現状の課題や取り組みを紹介するとともに、データを活用する未来の公務員像について考えます。

**8月2日 金**  
2024  
16:30 - 18:00

**場所**  
東1号館 2階 E1-205教室

**参加自由**  
参加人数把握のため事前申込をお願いします

**事前申込フォーム**  
<https://forms.office.com/r/WKHnKfMnAC>

【企画協力】 紀伊半島価値共創基幹 (KII-Plus)、CoCo Consulting株式会社



首長・副首長との意見交換を実施しました。DXの推進においては、首長、幹部職員等の高いコミットメントや担当者との意思疎通も重要であることから、これらを円滑にする役割を担うことができました。年度内に新たに着任された首長にも当事業の趣旨等をお伝えし、活用を促すこともできました。

## 【首長・副首長との意見交換を実施した自治体】

海南市、紀美野町、九度山町、広川町、日高川町、白浜町、すさみ町、古座川町、北山村

### 北山村訪問、意見交換



### 日高川町長表敬訪問





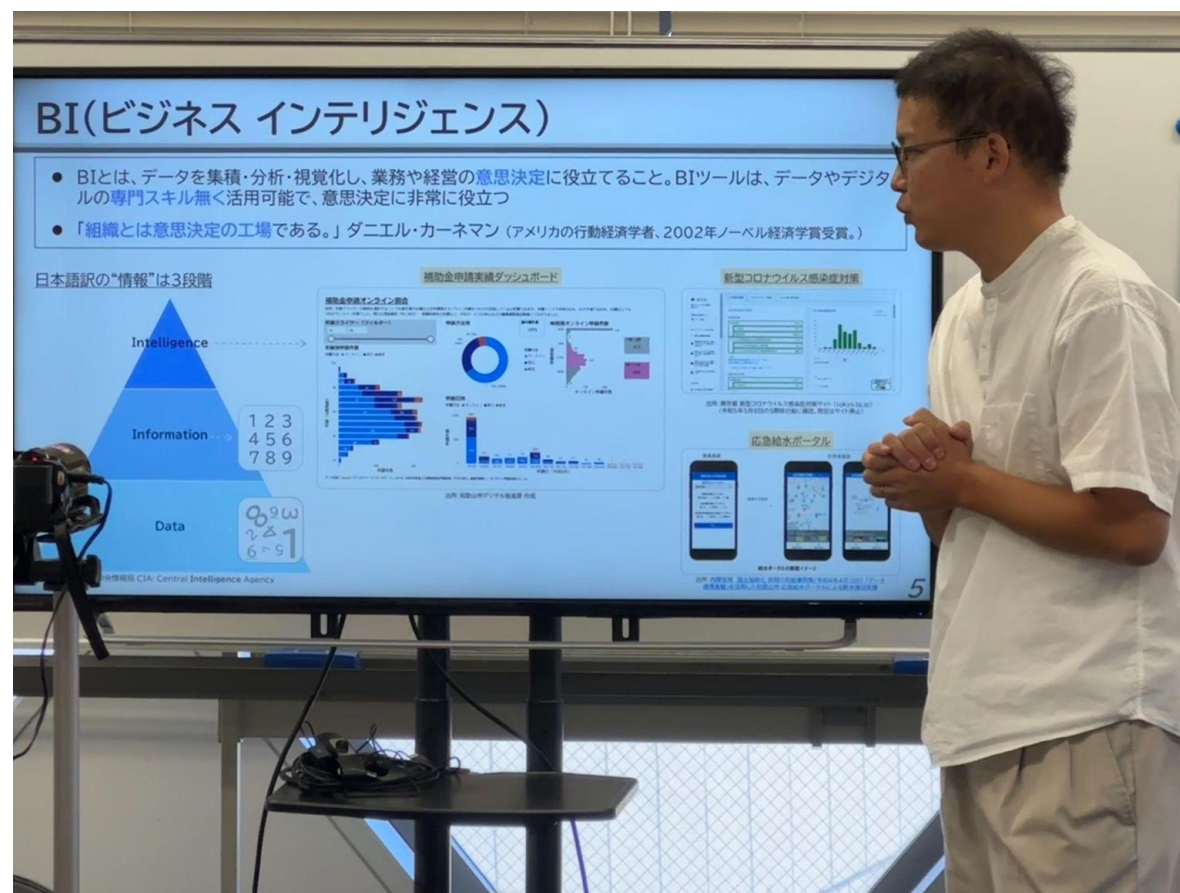
自治体職員にとって職員同士で同じ課題を共有しあうことや、職員として考えていること、先進的に進めていく際に担当者として経験してきたことなどを同じ目線で聞くことができると自分ごととして理解しやすく、自分ごととして行動に移しやすくなります。また、これらを共有した職員は、新たな視点を得ることができ、お互いに高めあうことも期待できます。

本事業では、各団体の研修ニーズと講師ができる職員のマッチングを行うとともに、職員が国のアドバイザー制度への登録を行うことで他団体を円滑に支援しやすくしながら実績を積めるようにするための支援を実施しました。その結果、職員が県内の他市町村へ講師として赴き支援が実施されました。

## 日高地域別よろず相談での御坊市職員によるDX研修



## 海草・那賀地域別よろず相談での和歌山市職員によるBIツール研修





当事業では、自治体に取り組んでいる内容をできるだけ共有する機会を作り、これから取り組む自治体の参考にするとともに、実際に取り組んでいる自治体にも質問や提案をするフィードバックを行うことで、より良い取り組みになっていくことを目指しています。

合同研修会や成果発表会、地域別よろず相談等を活用して事例を共有しあうことで、お互いに進化していける関係を築いていきます。また、チャットコミュニケーションにより事例を共有することやオンラインで配信するなど、実施している内容を共有することで、より知見を共有することが始まっています。

### 合同研修会の様子



### 田辺市のDX塾の報告をオンライン配信にて共有



## DX人材育成研修 田辺市DX塾



1. 概要
2. 実績（令和4～5年度）
3. 令和6年度 発表会





日本唯一の飛地の村、北山村に隣接する上北山村及び下北山村との県境（和歌山県、奈良県）を跨いでの合同研修を実施しました。以前から北山三村での交流は行っていたということでしたが、DXの推進という観点での連携はまだ行われていなかったため、まずはワークショップを企画し、実施しました。同規模かつ隣接している地域であるため、課題も共通のものが多く、満足度も高い結果でした。引き続き、このような機会を持ち、お互いに協力できる体制を築いていきます。

参加者：12名

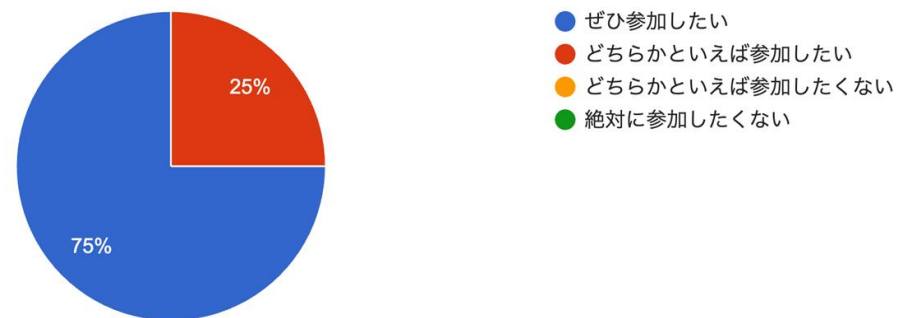
参加団体：上北山村、下北山村、北山村、熊野市、和歌山県、奈良県

開催日時：2024年11月28日（木）



#### 4. 今回のような研修に今後も参加したいですか？

12件の回答



# 紀北9団体 成果発表



## 発表順 (紀北)

発表者の方はスクリーン  
向かって右手にお並びく  
ださい

1. 和歌山市
2. 海南市
3. 橋本市
4. 紀の川市
5. 岩出市
6. 紀美野町
7. かつらぎ町
8. 九度山町
9. 高野町

# 1.和歌山市



## R6年度DXの取り組みと成果

- ①ペーパーレスから始めるDX推進
- ②オンライン申請の拡充
- ③DX研修メニューの進化と深化

ペーパーレス目標値の調達量20%削減を達成する見込みであるほか、件数ベース65%の手続きでオンライン申請可能とするなど、身近で実践できるDXから愚直に推進中

用紙調達

量  
100

80 %

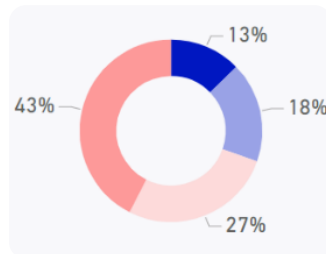
オンライン申請可能割合

56



65 %

### よろず相談を活用した取り組みと成果（上記と対応）



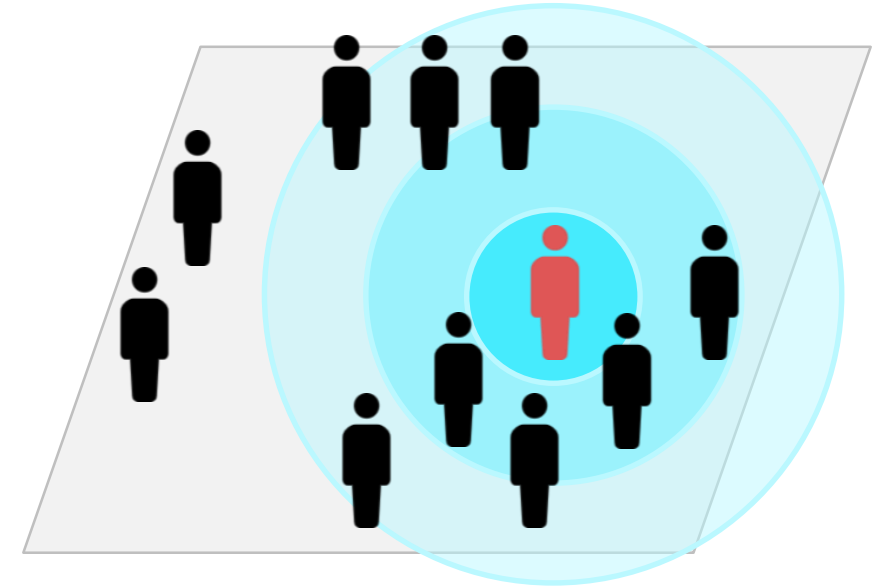
- ①職員DX意識調査実施と他5自治体との連携
- ②研修実施およびアドバイザー紹介



# 次年度の取り組み予定

- ① サービスデザイン
- ② データフレンドリー
- ③ DX推進リーダー\*仮称育成

ユーザー本位のサービスをデザインし、データフレンドリーを合言葉にデータを利活用し、そしてDX推進の輪を広げるためDX推進リーダー\*仮称育成に取り組みます！！



デジタルも使い窓口改革



庁内データ、オープンデータ、ダッシュボード整備



勉強会や現地調査等



## 2. 海南省

# R6年度DXの取り組みと成果

海南省

## ①海南省デジタル化冊子作成

- ・DXに取り組む背景
- ・MVV(ミッション・ビジョン・バリュー)
- ・これまでの取組
- ・これからの取組
- ・今後の取組スケジュール  
⇒共通意識の醸成



### ■冊子内容例

#### DXに取り組む背景

##### 現状の課題

- ①働き手の減少  
日本の人口は減少傾向にあり、このまま減少が進むと人手不足に陥り、行政サービスの維持ができなくなることが懸念されます。
- ②住民のニーズの多様化  
戸籍や税金、マイナンバーカードなど、自治体で行う手続きの数が増加しており、多くの人手が必要です。

##### 今後の課題

- 職員1人当たりの負担が増加
- 行政サービスの低下

##### 課題解決に向けて

- 利便性や安心感が高い行政サービスを提供するため、デジタルの力を使う。
- 海南省は、「デジタルの力で築く笑顔あふれる持続可能な社会」を組織の目指す方向性に掲げ、DXに取り組む。

## ②データ利活用 (Tableau)

- ・自治体開催のBIツールの研修への出席
- ・職員を対象としたデータについての研修会の開催

### よろず相談を活用した取り組みと成果 (上記と対応)

- ①冊子の今後の活かし方/取り扱い方法等
- ②BIツール勉強会への参加

# 次年度の取り組み予定

## ①データの利活用（Tableau）

- ・職員を対象とした研修会の開催（2回目）
- ・Tableauを使用した各種ダッシュボードの作成と公開



## ②生成AIの活用検討

- ・LoGoチャットでのAIアシスタントBOTの検討



海南市

1度目の研修満足度（★1～5）

★4.1

データ利活用研修  
～tableauを添えて～



- ・グラフ化や項目の修正など時間短縮につながると感じた。
- ・簡単にデータをグラフ化できそうで、エクセルよりも便利そう。
- ・わかりやすく要点を把握する事ができると思いました。

（1度目の研修参加者の声）

# 3. 橋本市

## R6年度DXの取り組みと成果

- ① 部署間の壁を越えた課題共有の実現
- ② 和歌山県との連携を実施
- ③ 業務改善に係る職員研修の実施

できるだけ庁内で抱えているDXに関する悩みなどを吸い上げ、部署間を越えてよろず相談会の活用に努めました。  
また、教育委員会の関係については県と調整し、協議の場をもてたことが良かった点です。



### よろず相談を活用した取り組みと成果（上記と対応）



- ① 在宅勤務制度について県を参考にしながら検討を行いました。
- ② 教育委員会の業務効率化を図るためのネットワーク環境について県と協議しました。
- ③ 職員研修はグループワークでゲーミングも行いました。

# 次年度の取り組み予定

- ①教育DXの推進
- ②生成AIツールの活用
- ③書かない窓口の更なる促進

教育DXは引き続き推進し、書かない窓口については運用方法を見直すことにより、申請手続きに要する時間の短縮をさらに図り、市民が利用しやすい窓口を目指します。



出典：文部科学省HP GIGAスクール構想の下での校務DXについて  
ICTによる個別最適な学びの支援



ガイドラインを作成し、適切な利用及び活用促進



アウトソーシング人材も活用した窓口改革



# 4. 紀の川市

※ご欠席につき担当プロデューサー代読

## R6年度DXの取り組みと成果

- ①全庁で利用できる生成AIの導入
- ②DX推進のための研修の実施
- ③原則固定電話を廃止し職員一人一台スマホの配布

生成AIの導入や利用についてのワークショップを開催したり、そのほかのサービスの研修を実施することで、職員のDXに対する関心の向上に取り組みました。



### よろず相談を活用した取り組みと成果（上記と対応）

- ①DX関連の研修を開催しても参加者が少なく困っていたが、対象者や内容等の研修の進め方を相談した結果、生成AI研修では研修参加者が他の研修よりも集まり、また研修後の利用が拡大した。
- ②ネットワーク関連の見積りについて、相談したことで費用を少し抑えることができた。

# 次年度の取り組み予定

- ① システム標準化への対応
- ② 庁内ネットワークの更改
- ③ 職員一人一台配布のスマホの利活用

来年度はシステムの標準化へ向けて注力します。

また、今年度配布したスマホについても、業務効率化に利用できるよう活用方法を考えます。



職員用スマホの利活用



ネットワークの更改

# 5. 岩出市

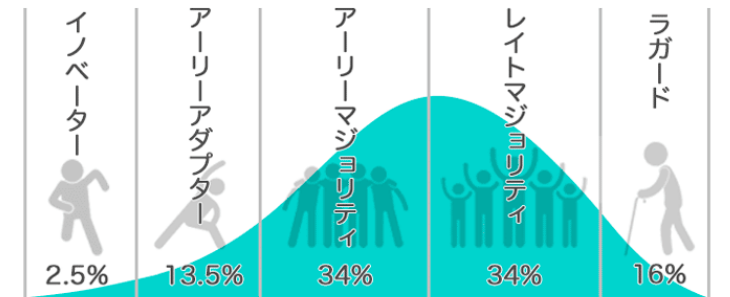
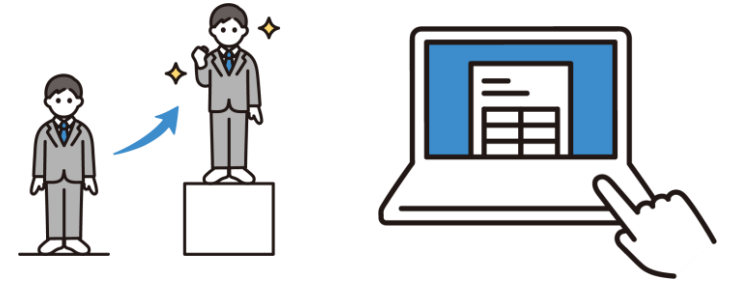
# R6年度DXの取り組みと成果

- ①組織文化の変革・機運醸成を図ることを目的とした研修の実施
- ②オープンデータの推進
- ③行政手続きのオンライン化の推進

(情報通信技術を活用した行政の推進に関する条例の制定)

今年度は、組織全体の文化を変革する端緒づくりのため、「アーリーアダプター」への職員の育成を目指して研修等のDXの取り組みを進めました。

岩出市



周囲とは違って  
いたいタイプ

周囲と同じが良い、  
憧れの存在に近づきたい  
と思うタイプ

周囲のことは全く  
気にならないタイプ

## よろず相談を活用した取り組みと成果（上記と対応）

- ①経営・財務マネジメント事業を活用した研修の実施（計3回）  
(サービスデザイン、マネジメント、ほんまに「やめること」ワークショップ)
- ②オープンデータカタログサイトの開設  
(各課にオープンデータの作成を依頼中)



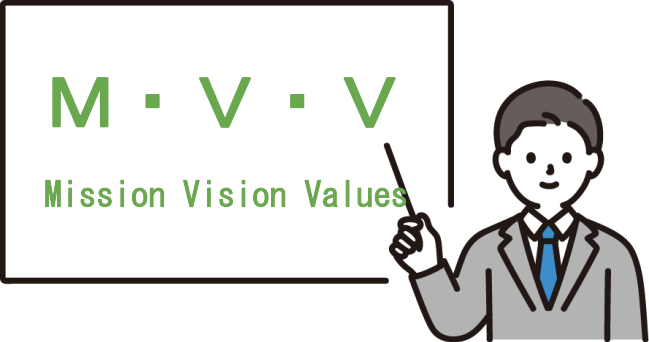
岩出市  
オープンデータカタログサイト  
IWADE CITY Open Data Catalog Site



# 次年度の取り組み予定

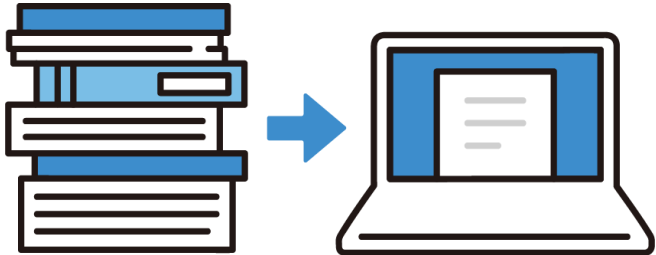
## ①DX推進計画の策定

DXに関する使命(Mission)、将来像(Vision)を明確にするため、行動指針(Values)となるDX推進計画を策定します。



## ②文書管理・電子決裁システムの導入に向けた各種検討・調整

グループウェア内のノーコードツールを活用した電子決裁の試用など、文書管理・電子決裁システムのR8年度導入に向けて、各種検討・調整します。



## ③公式ウェブサイトのリニューアル

岩出市全体の情報発信機能の強化を目指し、広報媒体を連携することで誰でも情報が手に入りやすい環境を構築します。



# 6. 紀美野町

# R6年度DXの取り組みと成果

## ～人材育成に捧げた1年～

- ①職員ITパスポート取得を支援しました。
- ②意識改革のためのDX研修会(講師：菅原氏)を実施しました。

今年度、DX推進室が総務課から企画管財課に所管替えとなり、引継ぎの際に感じたことが「計画や体制は整っているが職員の意識がまだまだ低い」でした。

そこで今年度は「人材育成」をテーマに取り組みを実施しました。

### ITパスポート受験の状況

- ・予算20名分に対しR7.3までに20名受験予定！
- ・R7.2現在、合格者☆☆名！



### よろず相談を活用した取り組みと成果（上記と対応）

- ①ITパスポート取得における情報提供
- ②意識改革のためのDX研修会における菅原氏との調整



## 次年度の取り組み予定

- ① 統合型GIS導入に向けた取り組み！
  - ② ITパスポートの取得促進～続編～
  - ③ 意識改革のためのDX研修会の実施～発展～
- 講師：菅原氏（予定）

R7年度は、DX推進部会で検討し庁内統合型GISの導入に向けての取組を進めます。また、ITパスポートについては今年度の経験を踏まえながら、取得者を増やします。R5、R6と2年実現している菅原氏の研修会をR7も実施し、「人材育成」と「意識改革」に取組んでいく。

### ITパスポート試験の感想



- ・自分が受験するなんて想像もしなかったが、取り組むうちに楽しくなってきた。
- ・次こそは必ず。。。

### ITパスポート試験勉強中！



### 菅原氏研修会の感想♪

- ・デジタルを利用するDXについてだけでなく仕事全般についてのお話であったため、まずは自分の仕事に対する考え方から変えていけると思った。
- ・今まで考えた事のなかった考え方をしていた。

デジタル技術は手段であって目的ではない  
みんなにやさしい 🍌 🍌 🍌



### 脱デジタル宣言

～旅する副町長による働き方を再デザインする警鐘の挑戦～

2019年に全国の自治体で初めて最高デジタル責任者(CDO)を任命した福島県磐梯町。自治体DX(デジタル変革)の先進事例として国やメディアで紹介されることも少なくないですが、当初から自覚としていたのは単なるデジタル化の推進ではなく、町のミッション・ビジョンの実現であり、そのための「手段」として、デジタル技術「も」活用する」という行政運営の進歩です。2021年6月には、「デジタル技術～デジタルからデザインへ～」を宣言し、まちづくり、行政経営、働き方等のあり方を関係者から「再デザイン」する方向性を明確にしました。2024年3月には、全国の自治体に先駆けて創設した「デジタル変革推進課」を廃止し、抜本的な組織改革で副町長2名制を創設しました。

そこで、今回は磐梯町「旅する」副町長の菅原直敏氏を講師として、磐梯町が進める「(仮称)市民のしあわせ共創・協働プロジェクト」の概要と「働き方の再デザイン」、また「デジタル人材の育成と確保」についての取組と意識を話し合うことで、参加者の多様な働き方に対する認識共有・機運醸成を図ります。



旅人・ソーシャルワーカー。神奈川県出身。  
一般財団法人代表理事。  
現在、福島県磐梯町「旅する」副町長(最高デジタル責任者、最高情報セキュリティ責任者兼務)。  
日本初の自治体CDOとして、自治体DXの認識共有・機運醸成、方針策定、推進体制整備、策・市町村連携において、自治体の政策形成に資する事例を創出。  
企業経営者でもあり、大企業・自治体から中小企業・自治体まで、経営、DX・ITにおける超上流工程経営戦略、組織変革等のデザインを得意分野とする。また、和歌山県・市町村総合プロデューサーとして、県と30市町村の協働・共創をデザインする。大崎市DX・経営担当政策アドバイザー。和歌山県行政経営戦略推進部副委員長。

開催日時 10月23日(水) 10時00分～12時00分  
開催場所 紀美野町中央公民館 大ホール  
講師 菅原直敏氏(福島県磐梯町「旅する」副町長)  
(和歌山県・市町村DX総合プロデューサー)

# 7. かつらぎ町

# R6年度DXの取り組みと成果

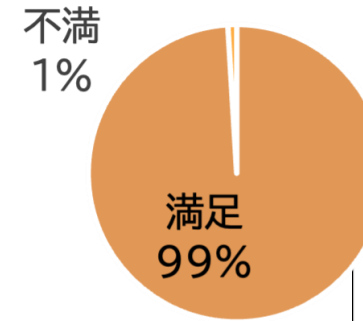
## ①明確な目標設定

## ②各課へ声掛け強化、情報収集

## ③DX方針の策定

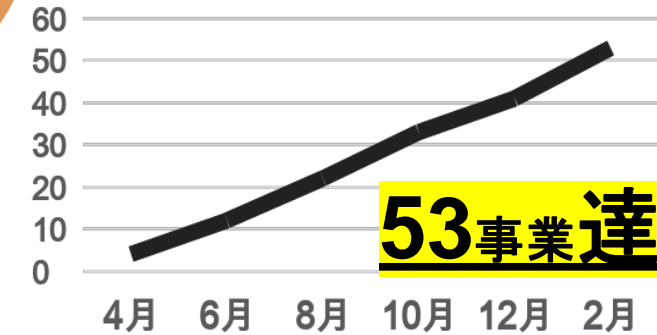
DXの主担当がない中、危機感を抱いた職員が『よろず相談』をきっかけにDXを推進。目標設定、情報収集を進め、役場全体を巻き込み、町のDX方針策定に至った。

LINE欠席連絡の満足度



利用住民の**99%**が**満足**

オンライン申請導入事業数



**53事業達成!**

## よろず相談を活用した取り組みと成果（上記と対応）

- ①デジ田交付金KPIの達成
- ②首長面談とDX研修（課長対象）の実施



管理職員のはじける笑顔★

**機運の高まり**

# 次年度の取り組み予定

①DXの所管係「情報政策係」の新設

②DX推進方針の施行と推進

③各課ヒアリング・DX推進計画の検討

R6年度は、ボトムアップでのDX推進がメインとでしたが、次年度は、DX推進方針を施行し、トップダウンのアプローチを強化。各課と連携しながら、さらにDXを推進し、行政サービスの住民満足度向上を目指します。

かつらぎ町の  
でいーえつくす  
ほうしん ✨

トップダウン

現在、作成中！  
(今年度中に完成)



## 令和6年度役場内の変化 (担当者の肌感)

年度当初

え、DXって  
なに???  
おいしいの?

役場職員



デラックスケーキなら知ってる。。

年度末

DXって、DX  
だよね。ウゥ。  
大事だよね。



パァァ

# 8. 九度山町

# 令和6年度DXの取り組みと成果

## 令和4年度から実施している人材育成事業と、そこからつながる組織的な業務改善活動への移行準備

人材育成事業内において、「業務改善」や「雑務退治」をテーマとして研修を実施し、改善提案を作成した。

また、「窓口改善」、「職員の兼業」、「廃校施設の有効活用」の3つのワーキングチームを立ち上げ、町長へのプレゼンを実施した。

### 成果

- 改善意識の醸成
- 活発な意見交換
- 横断的なチーム編成によるコミュニケーションの増加
- 提案が改善につながったものや新規事業として進める予定となったのものもあり

### よろず相談を活用した取り組みと成果（上記と対応）

- ① 「業務改善型」の業務改善の仕組みの導入に向けた相談
  - ② 業務改善研修の実施
- 次年度へ

### その他

- ① 勤怠管理システムの導入
- ② クラウド型音声ファイル文字起こしサービスの導入
- ③ 警戒情報支援サービスの導入

# 9. 高野町

※オンライン

# R6年度DXの取り組みと成果

- ①コミュニケーション基盤の整備を行いました。
- ②電子文書管理に着手しました。
- ③現場主体の気付き発掘を行いました。

今年度は、グループウェアの導入によってコミュニケーション基盤を整備しました。現場の声を聞き、職員の理解度を把握しながら段階的にグループウェアの機能を開放していくことで、職員の混乱を避けつつDXを推進しました。



## よろず相談を活用した取り組みと成果

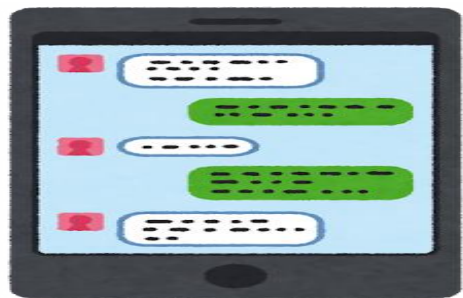
- ①他企業の電子文書管理方法を拝見し、それを基にマニュアルの策定に着手しました。
- ②よろず相談でのお話から、excelを用いて業務の問題、原因、対策、経過を纏め始めたところ、現場の話だけで終わらせず、業務改革(BPR)に役立てる起点を作ることが出来ました。



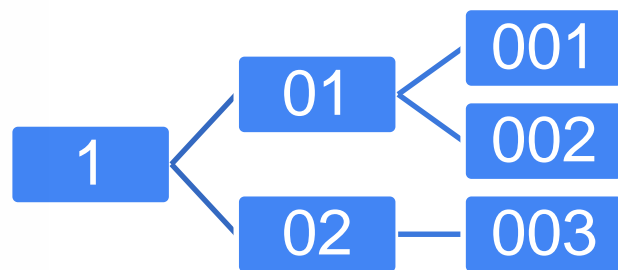
# 次年度の取り組み予定

- ① コミュニケーション環境の確立
- ② 電子文書管理の具体的なルール策定
- ③ 気付き発掘を基にしたBPRの実施

上記の通り、令和6年度に行った事に引き続き取り組む予定です。現状、DXの取り組みは総務課が中心となって行っていますが、チャットツールの導入や電子文書管理、会話を通じた気付き収集などを通し、他課を巻き込んで職員の機運醸成を行ってまいります。

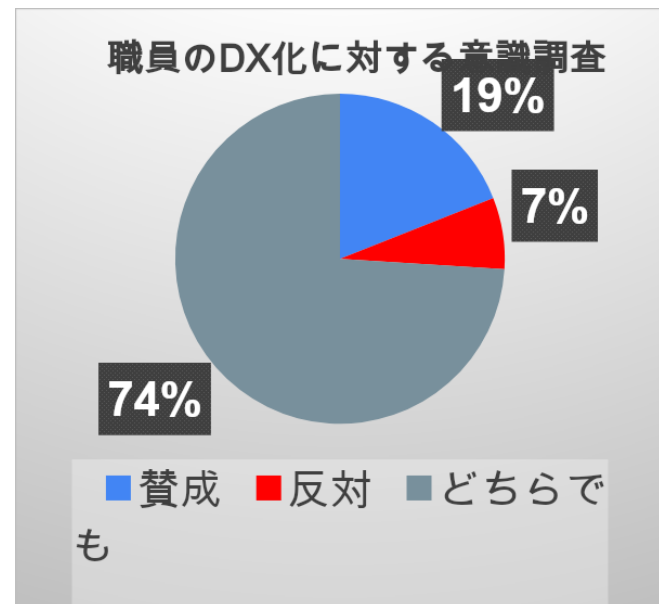


チャットツールの導入



フォルダ管理

## 高野町



※図はイメージです。

### 会話の中からの気付きの例

- ・ 人口統計を作成しているが、実際活用されているか？自動化出来ないか？
- ・ 直通番号から外線を使用する組織文化がないため、誰が電話をかけたかわからないことが多い。

気付きを基にしたBPR

# 和歌山県・市町村DX 紀北アワード (Sli.do投票・表彰)



# 休憩

14:30~14:45



# 本日のプログラム

13:30 - 13:35 開会のご挨拶

13:35 - 13:45 市町村DX事業の経緯（行政企画課）

13:45 - 13:55 令和6年度事業の報告（CoCo Consulting株式会社）

13:55 - 14:30 紀北9団体成果発表・紀北アワード（Slido投票・表彰）

14:30 - 14:45 休憩

14:45 - 15:25 紀中11団体成果発表・紀中アワード（Slido投票・表彰）

15:25 - 15:40 休憩

15:40 - 16:15 紀南10団体成果発表・紀南アワード（Slido投票・表彰）

16:15 - 16:20 地域デジタル基盤活用推進事業 実績報告（デジタル社会推進課・有田市）

16:20 - 16:30 和歌山アワード（各重点分野の表彰）

16:30 閉会

# 紀中11団体 成果発表



# 発表順 (紀中)

発表者の方はスクリーン  
向かって右手にお並びく  
ださい

1. 有田市
2. 御坊市
3. 湯浅町
4. 広川町
5. 有田川町
6. 美浜町
7. 日高町
8. 由良町
9. 印南町
10. みなべ町
11. 日高川町

# 1. 有田市

# R6年度DXの取り組みと成果

## マイナンバーカードを活用した市民窓口の整備

- ①書かない窓口の整備
- ②証明書交付対応行政キオスク端末の庁内設置

当市においてマイナカードの取得率は8割を超えたが、その活用ができていなかったことから、マイナカードの利活用を促進し、行政サービスの利便性を向上させるために、書かない窓口の整備や、証明書交付対応行政キオスク端末を庁舎内に導入しました。

### よろず相談を活用した取り組みと成果（上記と対応）

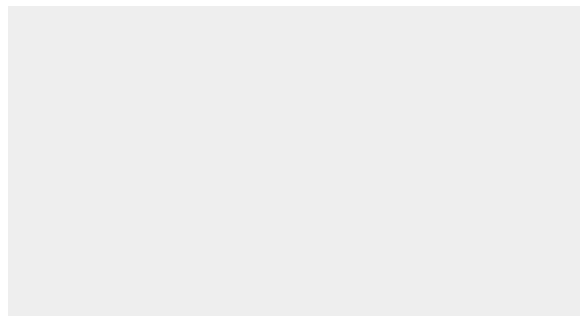
- ①サービスデザイン研修で得た知識を活かし、利用者目線の「書かない窓口」を整備
- ②コミュニケーションハブを活用し、他自治体との情報共有を進め、課題を解決



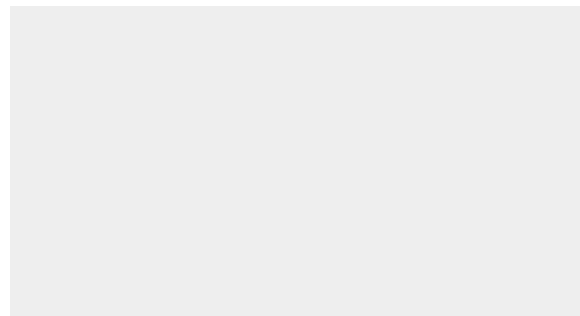
# 次年度の取組予定

- ① 電子申請手続きの拡充
- ② BPRとさらなるデジタル化促進
- ③ AI活用の推進

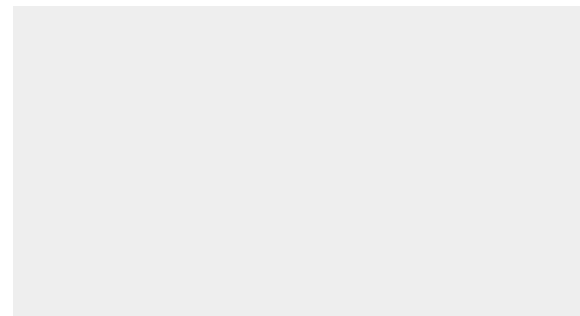
次年度は、電子申請手続きの拡充、業務プロセスの見直しおよびデジタル化の推進、さらにAIの活用により、業務の効率化と利用者満足度の向上を目指します。



電子申請で手続きを便利に！



デジタル活用で業務効率化！

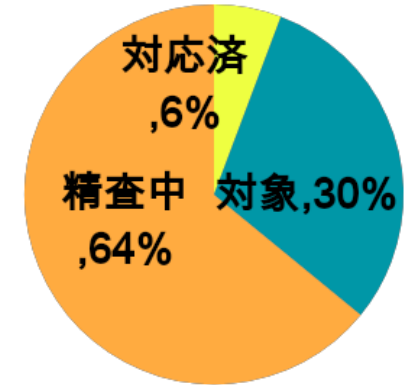


AIで効率的な業務手法の創出！

## 有田市

### 電子申請対応状況

■ 対応済 ■ 対象 ■ 精査中



## 2. 御坊市

## 【組織の正常化、組織改革の地盤・土台作り】

### ①イノベーション(改革)を起こす専任部署設置

R6.4に情報化・イノベーション推進室を設置し、DX・組織改革・行政改革・働き方改革を主導できる体制を整備

### ②組織改革の地盤・土台づくり

組織分析・職員アンケートにより、長年の旧態依然の状態が続いたことによる組織の硬直化が浮き上がった**抜本的な組織改革の地盤・土台作り**を推進

### ③業務改革・働き方改革を強力に推進

働き方改革として、ワークシェアリング制度やキャリアリターン制度創設。

特定部署への**業務改善プロジェクト始動**。当室が主導し、現場業務の業務改善や、補正予算による年末調整業務・代表電話の外部委託、出退勤システム導入、窓口キャッシュレス決済導入などを実施

## よろず相談を活用した取り組みと成果



- ①御坊市中村の経営・財務マネジメント強化事業アドバイザー登録
- ・他団体へのDX研修・講演
- ・情報化相談対応

## 【組織の正常化、組織改革の実行】

### ①組織大改革！大幅な組織改編そしてマネージャー制の導入

R7.4に**大幅な機構改革・組織改編**を行い、**マネージャー制**の導入

### ②人材育成・働き方改革の強化

令和5年度に大幅改正された「**人材育成・確保基本方針策定指針**」の策定

人材育成の取り組みとして、マネジメント研修、BPR・業務改善研修、パソコンスキルアップ研修、検索力向上研修、BIツール研修、生成AI活用研修、ノーコードツール研修、資格（ITパスポート）取得研究会などを予定しており、**既存職員の底上げ**を実施

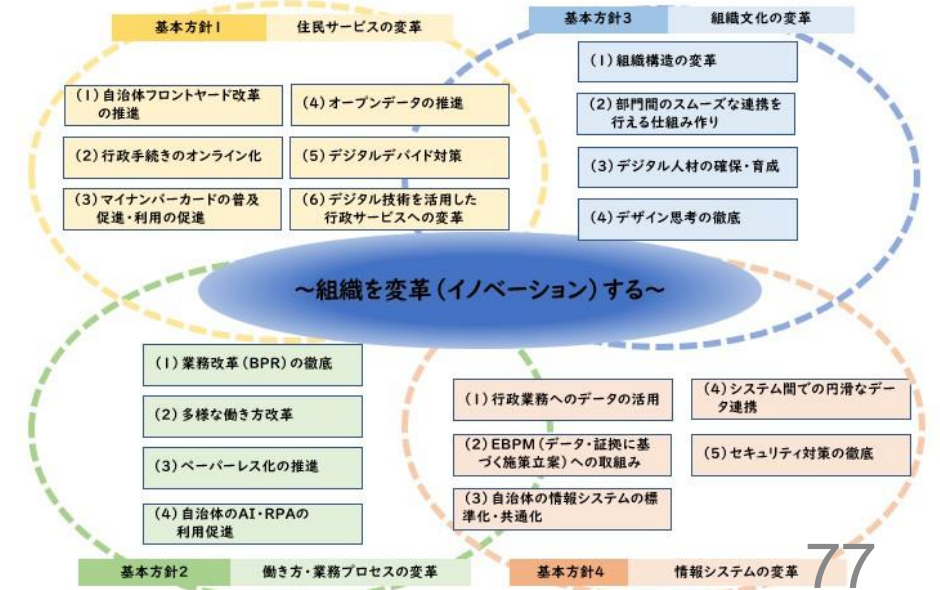
**働き方改革**として、御坊市版フレックスタイム制（仮）や、窓口時間短縮による働きやすい環境づくりにより、**職員の業務負担軽減**を目指します。

### ③DX施策の推進

#### 御坊市DX推進計画

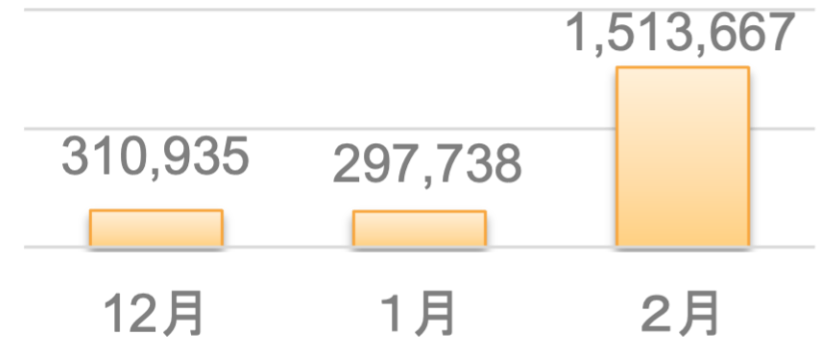
～組織を変革（イノベーション）する～

1. 住民サービスの変革
2. 働き方・業務プロセスの変革
3. 組織文化の変革
4. 情報システムの変革



# 3. 湯浅町

※オンライン



生成AI勉強会後にチャットツールの生成AIオプション利用率が大きく向上しました。

## R6年度DXの取り組みと成果

- ①生成AIの導入
- ②生成AI勉強会を開催しました。

チャットツールに生成AIオプションを導入しましたが、導入後の利用率が期待したほど向上しませんでした。そこで、生成AIを使用したことがない職員を対象に、少人数で勉強会を実施しました。

### よろず相談を活用した取り組みと成果（上記と対応）



- ①成果の上がった研修事例を紹介してもらい、勉強会を実施しました。
- ②勉強会用の魅力的なチラシテンプレートを提供してもらいました。

# 次年度の取り組み予定

- ①引き続き生成AI勉強会の開催
- ②ローコードツール勉強会の開催
- ③LoGoフォーム勉強会の開催

来年度の事業も、導入済みツールの勉強会開催が基本方針となります。導入後の利用率を高めるための取り組みとして、各ツールのハンズオン勉強会を推進する予定です。



生成AIを利用し業務効率化

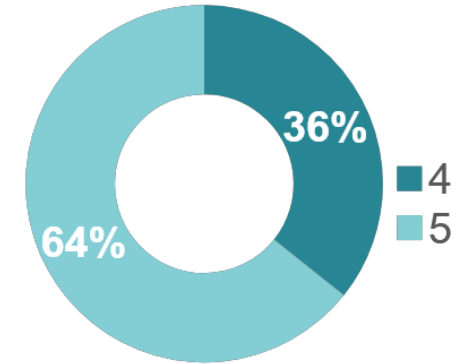


ローコードツールで脱Excel



ハンズオン勉強会で各ツールの利用率向上を目指します

## 湯浅町



令和6年度開催の勉強会について職員を対象に5段階評価で調査を行った結果、64%の職員が満足度5と回答しました。

# 4. 広川町

※ご欠席につき担当プロデューサー代読



## R6年度DXの取り組みと成果

- ① コンビニ交付サービスの導入
- ② オンライン施設予約 (Spacepad)
- ③ デジタル住民通知 (xID)

デジタル田園都市国家構想交付金を活用して、マイナンバーカードを用いた各種住民向けサービスを展開。  
SNS (公式LINEアカウント) 等も利用して、住民に対して新サービスの周知・PRを行いました。

xID



スマホでらくらく！施設予約

Spacepad



## よろず相談を活用した取り組みと成果 (上記と対応)



### ① 庁内全職員向けDX研修を開催

→サービスの充実・住民の満足度向上には、各課職員の協力が不可欠。

DXに対する機運醸成を高める為、変革を阻害する要因 (組織・ヒト) を見直すことを目的とした集合研修を実施。

## 次年度の取り組み予定

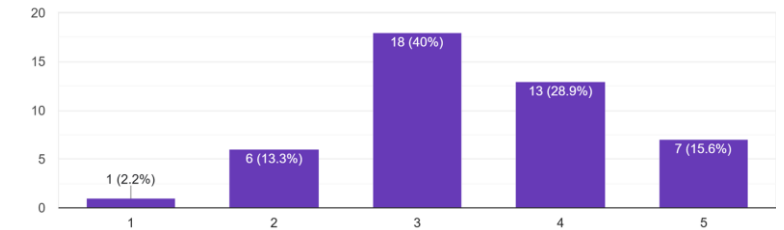
- ・導入サービスの拡充とDXによる業務改善  
 →xIDアプリ推進（サービス拡充）  
 →業務改善ツール（チャット等）全庁利用

新規事業の導入検討は見送り。導入したサービスの機能充実、および住民満足度向上を第一に、予算をかけずともDXは成功することを「住民」のみならず「職員」にも実感いただく。



すべての職員がDXを感じられる職場環境に

1.本日の研修の満足度を回答してください。  
45件の回答



DX研修会実施アンケートでは、全体の8割を超えるDXに関する肯定的（積極的）な意見をいただきました。

- ・これまで特定の課だけで使用していたツールを全庁利用  
 →まずは使用してもらい、便利さをアピール  
 →住民向けサービスを提案、自ら応用できるスキルを身につける

# 5. 有田川町

## R6年度DXの取り組みと成果

- ①DXの機運醸成
- ②ロゴフォームの体験型セミナー
- ③議案書システムの運用開始

- 職員のDXに対する機運醸成を図るため2度の研修とロゴフォームの体験セミナーを実施した。
- 議案書システムを使用するためのインフラ整備を行い、9月議会から実運用を開始した。



### よろず相談を活用した取り組みと成果（上記と対応）

1. 地方公共団体の経営・財務マネジメント強化事業を利用して2度の研修を実施した。
2. 本研修で紹介されたECRSを取り入れ自課の課題解決に向けた取り組みを行った。

# 次年度の取り組み予定

- ①公開型GISの導入
- ②DX関連研修の実施
- ③郵便DXの検討

- 来庁者や職員からの要望が多かった公開型GISを導入します。
- DX関連の研修を引き続き実施し、職員のDXへの機運醸成を図ります。
- 郵便DXを通じて郵送料予算と職員の郵送業務に対する負担軽減を目指します。



役所に行かなくても  
地図データが閲覧できる！



気づきから行動へ！

有田川町



Digital Transformation

自立したDXを目指します



郵便DX、全庁の調整に挑む！

# 6. 美浜町

## R6年度DXの取り組みと成果

- ①「やめること」から考えるDXワークショップの実施
- ②ワークショップで出てきたアイデアの精査・実現に向けた検討
- ③オンライン申請（LoGoフォーム）の無料トライアル実証開始

LoGoフォームの実証（無料トライアル）を開始するにあたって、上長との協議や予算要求のための準備に尽力した。

窓口担当課含め各課によろず相談やワークショップへの参加を促し、個人間で抱える課題等について、話し合ってもらった。



### よろず相談を活用した取り組みと成果（上記と対応）



- ①ワークショップ実施の調整・準備
- ②ワークショップで出てきたアイデアの実現に向けた課題の整理

# 次年度の取り組み予定

- ①業務改善に向けた各種システムの導入・実証（電子決裁システム、勤怠管理システム）
- ②オンライン申請の推進（Logoフォーム）
- ③コンビニ交付の実施、書かない窓口の導入

DXワークショップで職員から「超勤（タイムカード）管理業務のシステム化」「データの整理」「ペーパーレス化」といったアイデアが提案されたのを受け、総務課内にて協議した結果、文書管理・財務会計の電子決裁や勤怠管理システムの導入を目指し、令和7年度当初予算にあげている。

また、住民の負担軽減を目指し、コンビニ交付と書かない窓口（申請書記入サポート）の導入を目指し、こちらも令和7年度当初予算にあげている。



職員の作業効率及びペーパーレス化を目指す。



R5年度に引き続き、オンライン申請の推進。



住民に係る負担軽減を促進。



# 7. 日高町

# R6年度DXの取り組みと成果

## ①業務引継書テンプレートの作成 -業務効率の向上に向けて-

- ・マニュアル類が整備されておらず、引き継ぎに多くの時間と労力が費やされている（引き継ぎの方法も人によって異なる）
- ・業務が属人化してしまい、担当の不在などで業務が停滞してしまう  
→これらの問題を解決し業務効率を向上させるため、業務引継書のテンプレートの作成を実施

### よろず相談を活用した取り組みと成果（上記と対応）

- ・月例よろず相談で、意見を出し合いながら「業務引継書」を作成することができた。



課名	総務課
業務分類	定常業務
業務名	交通安全
文書分類番号	
保存期限	5年
予算事業名	2.1.7（交通安全対策費）
業務の目的・概要	日高町総合計画における「安心・安全・快適に暮らせる日高」の実現に向け、交通安全対策を推進する。
関係法令等	(国) (県) (町) 日高町交通指導員条例（条例第18号） 日高町交通指導用務の要綱に関する要綱 （「交通安全①交通指導②交通指導員要綱」フォルダ）
関係資料・マニュアルなど	
冊子名（簿冊名）	交通指導員 交通安全協会関係 交通安全に関する事項 交通安全運動関係 交通安全表彰 交通安全協会 町補助金等交付関係 交通安全対策特別交付金関係
データ保存先	「交通」フォルダ
担当する事務の中で重点となる項目及びそれを遂行する上で重要な事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通指導員会長には報告・連絡・相談を遅滞なく行い、事務局（町）で勝手に遂行する事は極力しない</li> <li>・指導員同士の間関係に気を配っておく</li> <li>・町の都合（出来る事）と指導員の要望等を折り合わせて調整する</li> <li>・依頼により指導員を派遣する際には、事務局もなるべく随行する（近年は近隣町村で随行する事務局が増えてきている）</li> <li>・近隣町村の交通担当と連携し、イベント等では事務局の動きを合わせる（日高町だけ祝電が無い、事務局が出動しない等のミスが無いように）</li> </ul>
懸念・課題・注意事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導員の引継を本人達に任せている部分が多く、町で引継に必要な内容等の把握が出来ていない</li> <li>・あくまで主体は交通指導員会という自主ボランティアの性質を帯びた団体のため、町がどこまでサポート、関与するかの問題がある（全て町で準備、用意する事が正しいのか）</li> <li>・交通指導員用のマニュアルが無い</li> <li>・これまではベテランの交通指導員さんが多く、問題なく運用されていた</li> <li>・今後新しく任命される人がいた場合に引き継げる必要がある</li> <li>・最低限交通指導員用の年間スケジュールはあった方が良さそう</li> <li>・交通指導員の成り手が減ってきている</li> </ul>

# テンプレート作成で心がけた事

- ① 誰でも簡単に作れる
- ② 一年間の流れが分かる  
(先んじて業務に取り組める)
- ③ 取り組むべき課題を継承出来る

→簡単なもので良いので、まず作ってみる (0→1にする)  
 自分が完璧なものを作る必要はない  
 (記入漏れや経験した事などを追記していける)

## 組織として経験・知識の継承が出来る

- 担当が変わってもリセットされない
- 業務の偏りがなくなる

年間スケジュール例

担当	事務分担	4月		5月	
		上旬	下旬	上旬	下旬
	届出関係	資格取得 資格喪失 申請 (5日以内)			
	総合行政	資格取得者 等級入力			
<p>【毎月必要な業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 保険料支払い (事業所負担分)</li> <li>• 保険料額情報のダウンロード→教委・出納ヘデータを回覧</li> </ul> <p>【随時業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 資格取得、喪失届提出 (職員の入退職、共済への切替があった場合)</li> <li>• 随時改定 (職員の昇給、降給があり、2等級以上の変更がある場合) ※人動き含む</li> <li>• 人勤がある場合は賞与支払届の訂正届も提出</li> <li>• 随時改定の等級変更処理</li> <li>• 被保険者データを社会保険届作成システムに取込 (e-GOVで電子送達される)</li> <li>• 保険料率改定があれば総合行政に保険料額表を入力</li> </ul>					



# 次年度の取り組み予定

- ① 「業務引継書」のブラッシュアップ  
実際に運用しながら「業務引継書」をより使いやすいものにしていく。
- ② 「業務効率化」を意識する  
引継書を作成する事で「業務効率化」の機運を醸成する
- ③ 「市町村での共有・比較」を目指す  
市町村間で業務フローなどの比較が容易に課題を共有して対応出来るツール等の共同利用の効果が増大



# 8. 由良町

※オンライン

## R6年度DXの取り組みと成果

- ①日直業務の改善（やめることから考えるDXワークショップの提案の実現）
- ②オンライン申請の実証（LoGoフォームのトライアル開始、次年度から本格的に運用を計画）
- ③DXの研修実施（講師：御坊市中村様）  
→全庁挙げてDXを検討するきっかけに



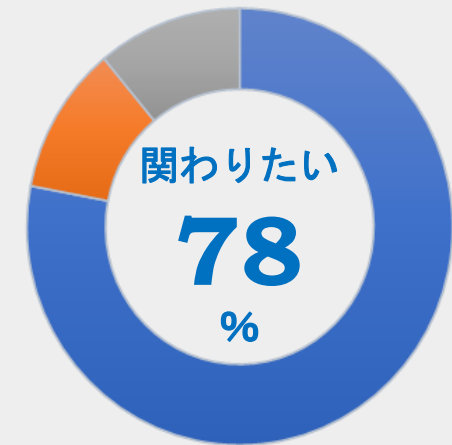
### よろず相談を活用した取り組みと成果（上記と対応）

- ①日高地域別よろずでオンライン申請に関する情報収集  
→LoGoフォーム導入の検討につながった
- ②月例よろず相談の中で、ファイル管理や業務効率化の検討を進めることができた

# 次年度の取り組み予定

- ①共有フォルダの構築
- ②LoGoフォームを使ったオンライン申請の推進
- ③チャットツール導入の実証

職員のDX意識(DXの推進について)  
※DX研修後に実施した職員アンケートから抜粋  
回答数28件



チャットを活用した業務効率化



ペーパーレス化を推進

# 9. 印南町



# R6年度DXの取り組みと成果

- ①住民票等のコンビニ交付開始
- ②AIボイスレコーダーの導入(試行段階)
- ③LoGoフォーム・チャットの体験・予算要求



町全体として、あまりDXとは何かを理解していないところがあったので、まずは初歩的でわかりやすく効果が出るところから始めました。

※コンビニ交付・LoGoフォーム(住民の利便性)、  
ボイスレコーダー(AI議事録作成による業務効率化)

## よろず相談を活用した取り組みと成果

印南町DXワークショップ  
ユーザー本位のDXを進めるための業務効率化ツール活用

2025  
2/3

生成AI等を活用した業務効率化の術を1時間でマスターしましょう！

参加ご希望の方はフォームでお申し込みください。 (URL)

※参加費 無償。印刷代は別途。印刷代は別途。印刷代は別途。印刷代は別途。

INPUT	13:30 - 13:45
実践	13:45 - 14:30
会場	印南町役場 3F会議室

和歌山県内のツール活用事例のご紹介  
和歌山県・和歌山市 専門アドバイザー 下山 伸代子氏

みんなで試そう！ ChatGPT & Camia  
テキスト生成AIでさまざまな文章を生成できるChatGPTと、画像生成AIの機能もあついているオンラインで使えるクラウド型AIツール「Camia」の活用事例をご紹介します。  
和歌山県・和歌山市 印刷担当 佐藤 健一氏

- ①課題の整理と人材育成の取り組みの方向性の検討
- ②研修の実施計画立案(次年度に実施予定)



入力フォーム

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

下記のフォームへ入力をお願いします。

こちらは「令和8・9年度印南町一般競争（指名競争）入札参加資格者名簿（物品製造・役務の提供等）」への登録申請フォームです。

印南町一般競争（指名競争）入札参加資格者名簿（物品製造・役務の提供等）への登録を希望される場合は以下に従って申請を進めてください。

【名簿の有効期間】  
令和8・9年度（令和8年4月1日から令和10年3月31日まで（2年間））

【定期受付について】  
令和8・9年度分の定期受付期間は令和7年12月8日（月）～令和8年2月13日（金）となります。  
上記期間中に申請いただいた場合、令和8年4月1日から資格者名簿に登録されます。  
上記期間を過ぎて申請があった場合、令和8年5月以降の名簿登録となりますのでご注意ください。

【随時受付について】  
定期受付期間終了後も、入札参加資格者名簿の有効期間が切れる令和10年3月31日までの間、いつでも申請が可能です。

## 次年度の取り組み予定

- ①LoGoフォームの導入
- ②無人航空機操縦者技能証明の取得
- ③よろず相談を活用した研修の実施

LoGoフォーム導入による庁内外の申請・アンケート等のオンライン化。  
スタートは少し遅れてしまいましたが、LoGoフォームを導入することによってオンライン化（利便性向上・業務効率化）が一気に加速すると考えています。



オンライン申請の普及



アンケートや出欠確認  
のオンライン化



ドローン運用の多彩化  
最適化

↑ 入札指名願のサンプル

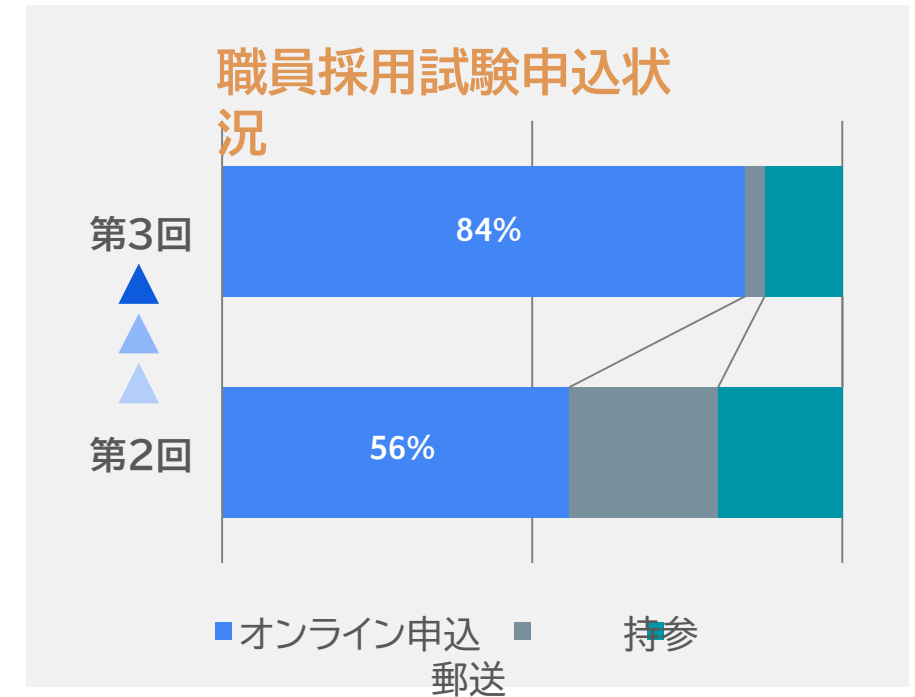
← 実際の研修の様子

# 10. みなべ町

# 令和6年度DXの取り組みと成果

- ①LoGoフォームの活用
- ②オープンデータを推進

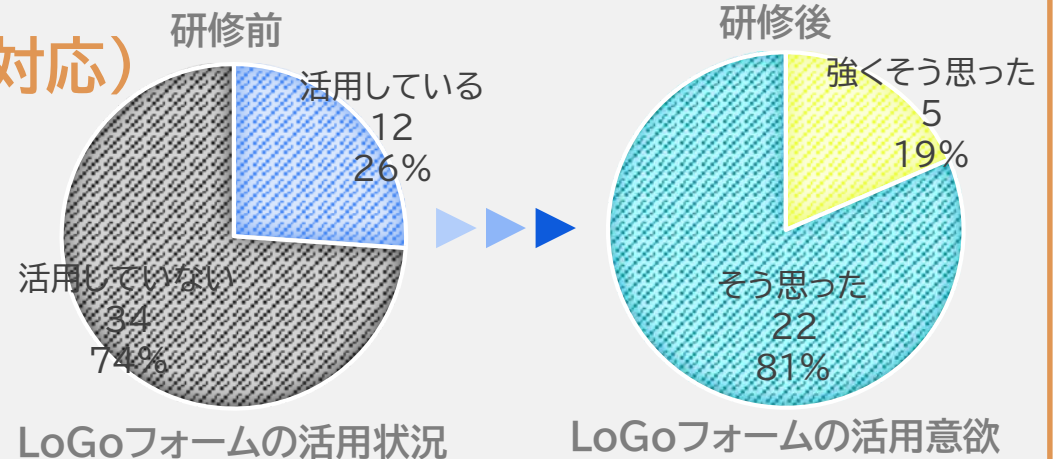
各種申請などのオンライン化を進めるために、LoGoフォームを導入し、職員研修を実施するなどの取り組みを行い、LoGoフォームの活用を促進しました。またオープンデータを新たに公表するための取組を進めました。



## よろず相談を活用した取り組みと成果(上記と対応)

- ①LoGoフォーム職員研修アンケートの実施
- ②オープンデータの取組方法

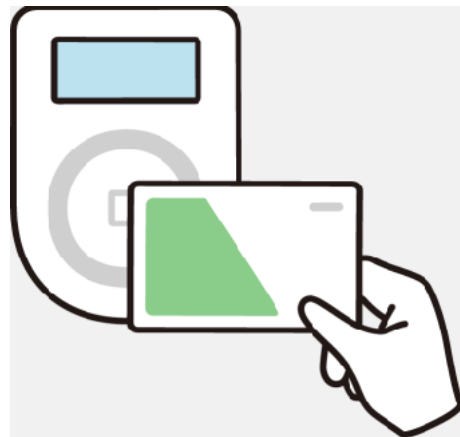
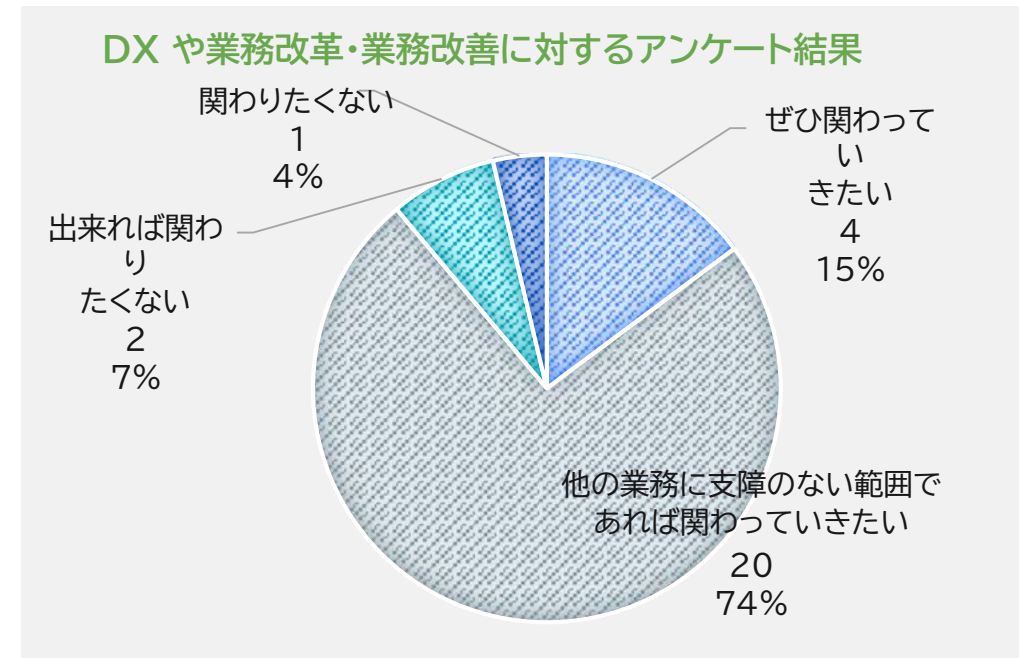
デジタル庁が定める『公共データ利用規約』の利用と、『自治体標準オープンデータセット』に準拠。  
公表件数は2件だが、今後増やしていく計画。



# 次年度の取り組み予定

- ① キャッシュレス決済の導入
- ② 電子決裁システムの検討
- ③ オンライン申請の充実

業務効率化とサービス向上を目的とした取り組みとなります。特に窓口業務におけるキャッシュレス化は、職員の負担軽減と併せて、町民の利便性が向上されます。



キャッシュレス決済



電子決裁システム



オンライン申請

# 11. 日高川町

## R6年度DXの取り組みと成果

- ①防災・行政情報アプリ導入
- ②ICタイムレコーダー導入
- ③LoGoフォームオンライン申請

今年度は、5月にアプリ運用開始、町内13施設にICタイムレコーダーを設置、オンライン申請ができる手続を増やすことに取り組みました。

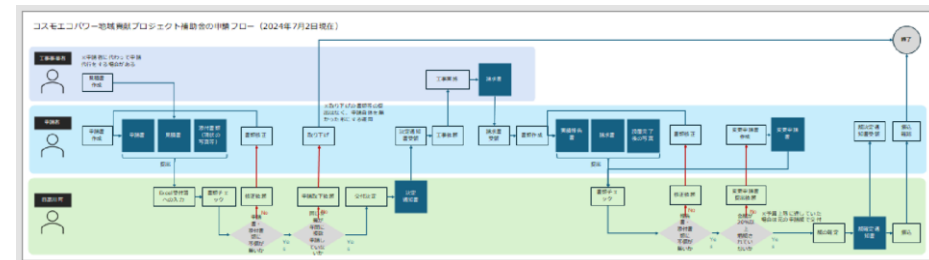


日高川町防災・行政情報アプリ



## よろず相談を活用した取り組みと成果（上記と対応）

- ①オンライン申請を使った補助金申請
- ②オープンデータの取り組み



## 次年度の取り組み予定

- ① 窓口キャッシュレス化
- ② オンライン申請の拡充
- ③ <次年度以降>

### 庁内決裁事務の電子化、ペーパーレス化

来年度は、窓口での支払いを**キャッシュレス**に対応し、**オンライン申請の拡充**と、**住民への周知**を進めていきます。  
 また、再来年度には、庁内決裁事務の効率化・迅速化を図る目的で**電子決裁システム**を導入していきたい。（まずは財務会計システムから始めて書庫の膨大な調書の山をなくします！）



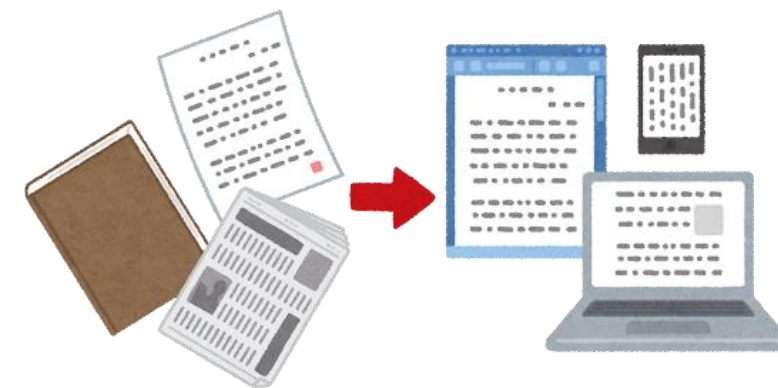
いろいろな手続きでオンライン申請ができるよって周知！

キャッシュレスでお支払い



オンライン手続き数

20 → 50



ペーパーレス化で業務効率を上げられるのか！？



# 和歌山県・市町村DX 紀中アワード (Sli.do投票・表彰)



# 休憩

15:20~15:35



# 本日のプログラム

13:30 - 13:35 開会のご挨拶

13:35 - 13:45 市町村DX事業の経緯（行政企画課）

13:45 - 13:55 令和6年度事業の報告（CoCo Consulting株式会社）

13:55 - 14:30 紀北9団体成果発表・紀北アワード（Slido投票・表彰）

14:30 - 14:45 休憩

14:45 - 15:25 紀中11団体成果発表・紀中アワード（Slido投票・表彰）

15:25 - 15:40 休憩

15:40 - 16:15 紀南10団体成果発表・紀南アワード（Slido投票・表彰）

16:15 - 16:20 地域デジタル基盤活用推進事業 実績報告（デジタル社会推進課・有田市）

16:20 - 16:30 和歌山アワード（各重点分野の表彰）

16:30 閉会

# 紀南10団体 成果発表



## 発表順 (紀南)

発表者の方はスクリーン  
向かって右手にお並びく  
ださい

1. 田辺市
2. 新宮市
3. 白浜町
4. 上富田町
5. すさみ町
6. 那智勝浦町
7. 太地町
8. 古座川町
9. 北山村
10. 串本町

# 1. 田辺市

## R6年度DXの取り組みと成果

- ①新庁舎移転に伴う環境改善
- ②DX塾提案の事業化
- ③デジタル人材育成

新庁舎移転に伴い庁内Wi-Fi化などを実施し、ハード面でDXを推進するための整備を行った。また、R4から実施している若手職員育成事業であるDX塾からの提案を事業化するとともに、デジタル人材育成の一環として資格取得助成制度を開始した。



### よろず相談を活用した取り組みと成果（上記と対応）



- ①先進地事例共有や自治体交流
- ②新庁舎で地域別よろず相談を開催



## 次年度の取り組み予定

- ①「書かない」「待たない」「迷わない」窓口
- ②WorkplaceInnovation（働き方改革）
- ③デジタル人材育成への道

R5から実施している窓口BPRを通じて、窓口サービスの再デザインを行うことや、全庁で活用しているグループウェア等の更新に併せて職員の環境を整備し、Well-beingな働き方を目指す。



Well-beingな窓口



Well-beingな働き方

DX人材育成研修  
田辺市DX塾

人材育成でWell-being



## 2. 新宮市

※オンライン

# R6年度DXの取り組みと成果

- ①「書かない窓口」着手
- ②職員向けのDX研修を2回実施
- ③オープンデータカタログサイト開設予定
- ④パソコン貸出予約を電子申請に移行

今年度は、電子申請（LoGoフォーム）やデータの利活用を推進する基盤を整備しました。また職員向けDX研修を2回実施するなど全庁的なDXに対する意識向上を図りました。



職員DX研修の様子

## よろず相談を活用した取り組みと成果（上記と対応）



・年度内にオープンデータ公開を目指しています。



・1月からパソコン予約を電話から電子申請に移行

# 次年度の取り組み予定

- ① 「書かない窓口」の実現
- ② 電子決済の活用
- ③ オープンデータの推進

「書かない窓口」「手数料等の電子決済」を実現して住民サービスの向上を目指します。  
また、オープンデータの公開に力を入れていきます。



マイナンバーカードから4情報を読み取り帳票を印字

## ・ 電子決済の活用



LoGoフォームの決済機能を活用して手数料や利用料等をオンラインで支払い可能に

## ・ オープンデータの推進 (BODIK)



**新宮市** オープンデータカタログサイト  
Shingu City Open Data Catalog Site

今年度開設したカタログサイトを活用できるようオープンデータの公開を推進

# 3. 白浜町

※オンライン

## R6年度DXの取り組みと成果

- ①連絡ツールの導入（職員間・拠点間）
- ②RPA活用に関する取り組み実施
- ③耐災害ネットワーク実装整備

今年度は、各部署で独自に推進しているDXに関する業務をサポートしつつ、方向性の定まっていない分野についてよろず相談を活用し、方向性を示すことで取り組みを支援し、達成率の向上及び成果に繋がりました。



耐災害ネットワーク

主要観光地・公共施設

### よろず相談を活用した取り組みと成果

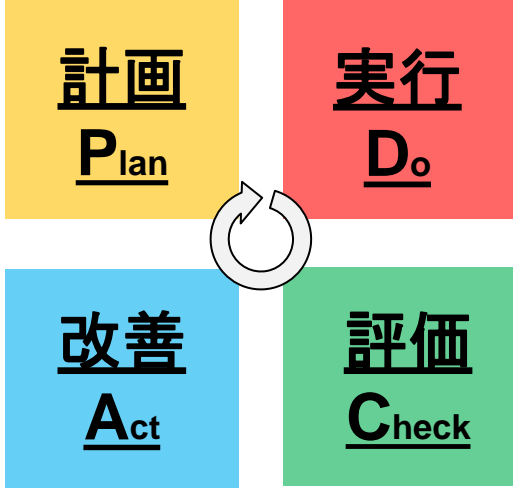


- ①連絡ツールの検証・導入 → 令和7年度予算化（仮）
- ②RPAの導入 → 今後の対象業務及び活用方法の検証（地域活性化起業人）

# 次年度の取り組み予定

- ①電子決裁・勤怠管理システム等導入への取り組み
- ②生成A Iの業務利用
- ③同意管理による情報でマーケティング

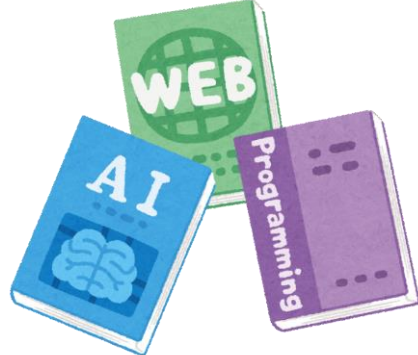
白浜町



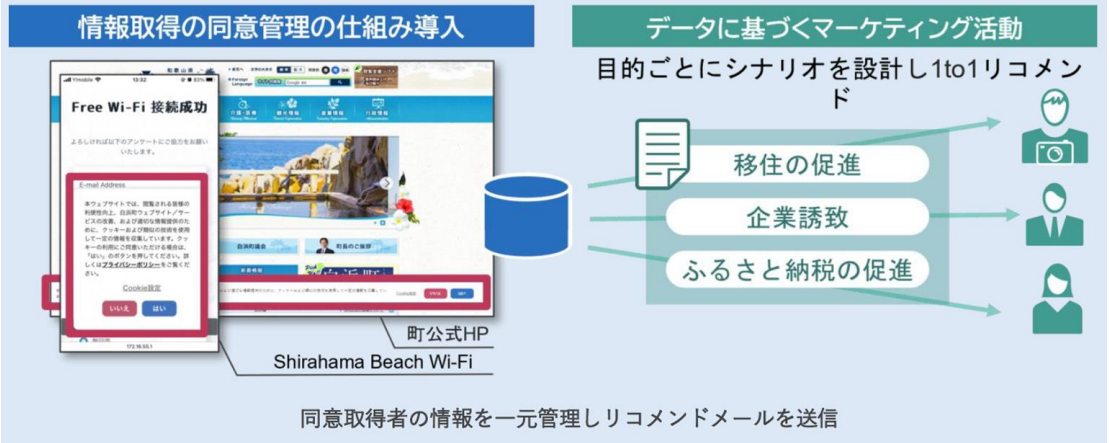
今までは、全体の事務に関わる業務改善に課題がありました。次年度はその課題の解消に各部署で連携して取り組む予定です。



電子決裁・勤怠管理システム導入で効率良く



生成A Iをより簡単に



同意管理システムによる情報収集  
同意を頂いた利用者へのリコメンドメール  
(関係人口の創出・拡大)

# 4. 上富田町

## R6年度DXの取り組みと成果

- ①電子決裁システムの導入
- ②アナログBPRに取り組んだ
- ③窓口体験調査を実施

書かないワンストップ窓口の実現に向けて視察やアナログBPRに取り組みました。また、昨年度に引き続き窓口体験調査を実施する等、職員への啓発に努めました。



### よろず相談を活用した取り組みと成果

- ①上富田町DX推進委員がよろず相談に参加し、課題解決に向けて取り組んだ。
- ②BPRや電子申請の充実に繋がった（進行中）



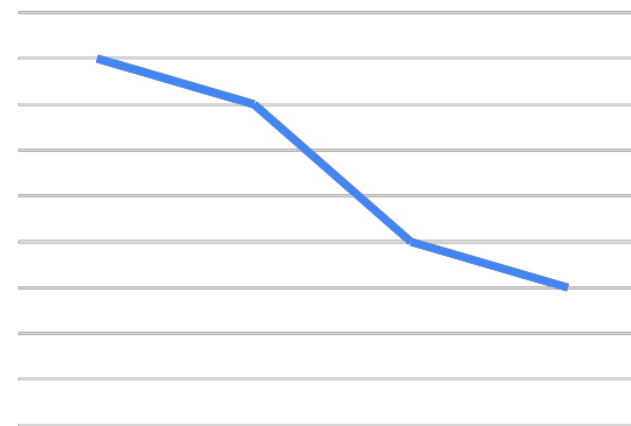
# 次年度の取り組み予定

- ①ペーパーレスの推進
- ②電子申請の充実
- ③グループアドレスの試行

電子決裁の運用開始により、ペーパーレスを更に推し進めます。紙からデジタル主体の事務作業に移行することで、グループアドレスに向けたパイロットオフィスを計画。



窓口体験調査



紙使用枚数の削減

# 5. すさみ町

## R6年度DXの取り組みと成果

- ①新庁舎建設に伴うDX推進基盤整備検討
- ②新たな環境における働き方や組織のあり方検討
- ③防災DX、医療行政MaaSの取り組み

令和8年度の庁舎移転に合わせDX推進の基盤となる新たなネットワーク環境の構築や機構改革の検討に取り組んでいる。

また、住民向けのDXの取り組みとしてドローンを活用した防災DXや医療行政MaaS車両の導入を実施した。

### よろず相談を活用した取り組みと成果（上記と対応）

- ①アドバイザー紹介、アドバイザー制度紹介
- ②各種取り組みのアウトプット
- ③県内市町村担当者等とのつながり



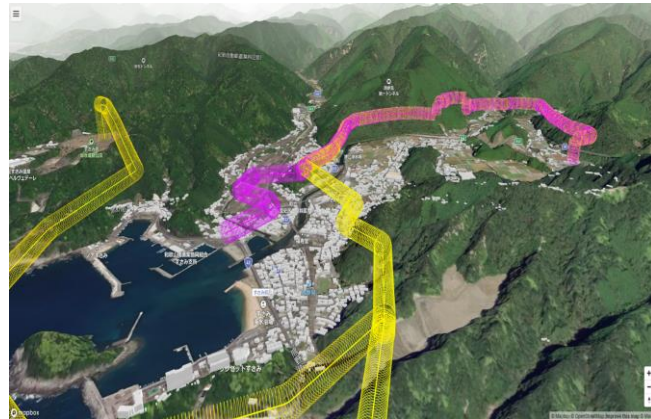
# 次年度の取り組み予定

- ① 新庁舎建設に伴うDX推進基盤整備
- ② 新たな環境における働き方や組織のあり方検討
- ③ 防災DX、医療行政MaaSの取り組み

令和6年度のDX構想・検討内容を更に具体化し次のステップへ  
 庁舎移転、組織改編等の改革の機運醸成を進め取り組みを強化  
 防災DX、医療行政MaaSの取り組み拡大、実践へ

## すさみ町

イメージバス | 鳥瞰



ドローン実証実験

2024年(令和6年)12月20日(金曜日) 青森県 青森市 高野町

### 行政サービス車 発進

#### すさみ町 過疎・高齢地域向け導入

すさみ町の過疎化率は47.7%と、全国的にも高い水準に達している。高齢化率も75歳以上の高齢者が人口の約4割を占めている。こうした状況を踏まえ、すさみ町では「行政サービス車」を導入し、高齢化が進む地域の利便性向上を図るため、全国では数少ない自治体として、和歌山県本庄市をモデル市として導入しているが、和歌山県内では初めて。

#### 移動投票所など検討

すさみ町の過疎化率は47.7%と、全国的にも高い水準に達している。高齢化率も75歳以上の高齢者が人口の約4割を占めている。こうした状況を踏まえ、すさみ町では「行政サービス車」を導入し、高齢化が進む地域の利便性向上を図るため、全国では数少ない自治体として、和歌山県本庄市をモデル市として導入しているが、和歌山県内では初めて。

#### 高野町でも来月

高野町も来月1月からマルチタスク車両を導入する。高野町は中心部の高野山に人口の7割を集中し、町役場や診療所などがある一方、中心部以外には高齢者が多く、車やバイクが不便な地域がある。導入することで、高齢者の移動や投票などの利便性が向上する。また、災害時の物資運搬にも活用される。導入費用は約100万円から150万円程度と見込まれている。

すさみ町では、この車両を活用し、高齢者の移動や投票などの利便性を向上させる。また、災害時の物資運搬にも活用される。導入費用は約100万円から150万円程度と見込まれている。

すさみ町では、この車両を活用し、高齢者の移動や投票などの利便性を向上させる。また、災害時の物資運搬にも活用される。導入費用は約100万円から150万円程度と見込まれている。

医療行政MaaS

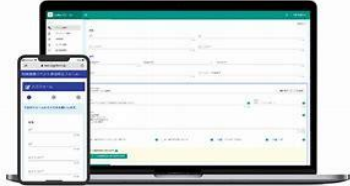


# 6. 那智勝浦町

# 《 R 6 年度DXの取り組みと成果 》

- ① LoGoフォームでオンライン申請可能に
- ② ペーパーレス会議システム導入
- ③ コンビニ交付開始

LoGoフォーム



今年度から、電子申請システム「LoGoフォーム」を導入し、合計63個（※令和7年2月20日時点）のフォームを実装。また、タブレットPCを18台配備するとともに、ペーパーレス会議システムを新規導入し、予算査定の際にも活用。加えて、令和7年1月27日より、コンビニ交付サービスを開始した。



## 【 よろず相談を活用した取り組み 】

### サービスデザイン研修「ユーザー本位なDX」

「ユーザー本位の実現」というサービスの本質を意識することを習慣化するために、対象ユーザーのニーズを様々な観点から考え、ユーザー像を設定して理想のサービスをデザインするグループワークを実施した。

# 《 次年度の取り組み予定 》

- ① キャッシュレス化推進
- ② 窓口改革
- ③ 電子申請の拡充

来年の目玉事業は、「キャッシュレス化推進」です。POS機能搭載の決済端末で、キャッシュレス決済及び現金の商品毎の売上を一元管理可能で、全ての決済状況のデータをCSVやExcel形式でダウンロードすることもできます。さらに、今年度導入した「LoGoフォーム」において、オンライン決済機能を追加するとともに、住民向けの申請フォームを重点的に拡充していく予定となっている。

また、タブレット端末等を活用した「スマート窓口」の実現により、住民の利便性を向上させるとともに、業務効率化による職員の負担軽減を目指す。



窓口での手数料支払いを  
キャッシュレス化



スマート窓口  
窓口業務の負担軽減



LoGoフォームでの申請を  
さらに拡充

# 7. 太地町

※ご欠席につき担当プロデューサー代読



## R6年度DXの取り組みと成果

- ① 庁内施設予約の一部をグループウェアに切替
- ② オープンデータを推進
- ③ 既存ファイルサーバーの整理に着手

今年度は、よろず相談でのアドバイスを受け、お金をかけずにできる取組を意識し、小さなことから事業着手しました。

今年度に住民向けアンケート調査を実施したので、アンケートの設問設計時にWell-Being指標を取り入れることとし、結果を比較できるようデジタル庁Well-Being指標サイトにアップロードしました。

### よろず相談を活用した取り組みと成果

- ① 既存グループウェアにおいて、庁内施設予約を実装
- ② デジタル庁Well-Being指標サイトにアンケート結果をアップロード＝オープンデータ化

## 次年度の取り組み予定

- ① データ保存時のルールづくり
- ② 既存ファイルサーバーの整理

来年の目玉事業は、データの整理及びルールづくりです。人事異動の際に前任のデータがファイルサーバー上のどこにあるかわからないため、データを探すのに時間を要する課題がありました。地道な作業となりますが、次年度はその課題の解消に各課連携で動きます。

課またぎ連携が  
必須

データ整理により  
業務効率化

データ検索の  
ストレスからの開放

# 8. 古座川町

※オンライン

## R6年度DXの取り組みと成果

- ① スモールステップでのDX推進
- ② 情報発信におけるDX検討
- ③ 防災行政無線のデジタル化

身の回りのできることを中心にDXに取り組みました。  
また、当町の大きな事業としては防災行政無線のデジタル化を進めており、来年度の完成を目指しています。



名前

- 平成31年 告示文書
- 令和2年 告示文書
- 令和4年 告示文書
- 令和5年 告示文書

### よろず相談を活用した取り組みと成果（上記と対応）

- ① 事例紹介による情報収集、町長へのDX意識づけ
- ② 若手職員WGとの意見交換



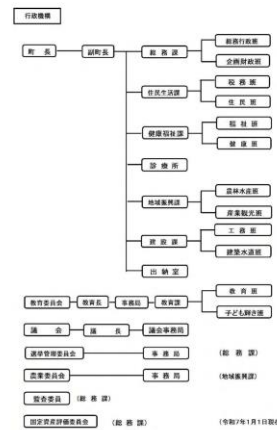
# 次年度の取り組み予定

- ①古座川版DX推進体制の強化
- ②スモールステップでのDX推進
- ③防災行政無線のデジタル化（完成）

DXを推進しづらい、職員減少がスタートし新たに課等を組織できない現状から、組織の仕組みづくりに着手し古座川町版DX推進体制の強化を目指して取り組みます。



専門チームを組織



庁内の協働が必須



意思決定の場を強く

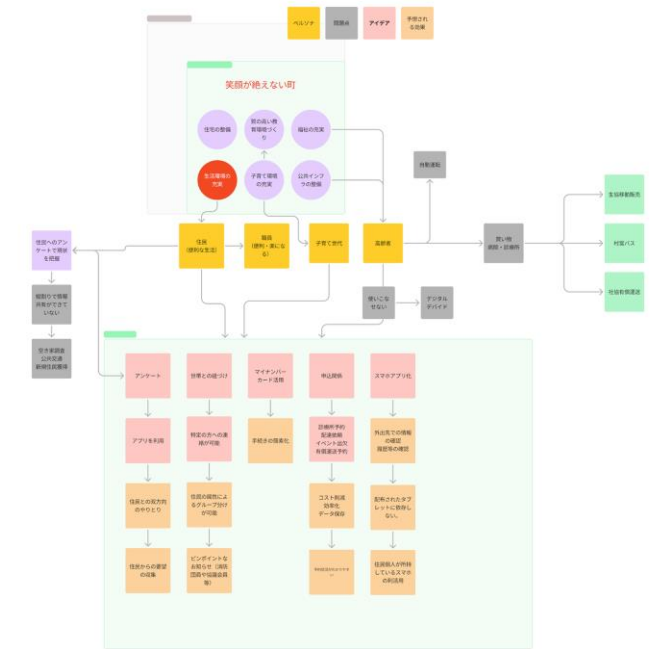
# 9. 北山村

# R6年度DXの取り組みと成果

## ①県境を超えた三村合同研修

## ②DX事業の原案作成

今年度は、職員のDXに対する理解を深め、組織全体で事業を推進するための基盤を築きます。また、作成したDX事業の原案を基に次年度にブラッシュアップを図ります。



## よろず相談を活用した取り組みと成果(上記と対応)



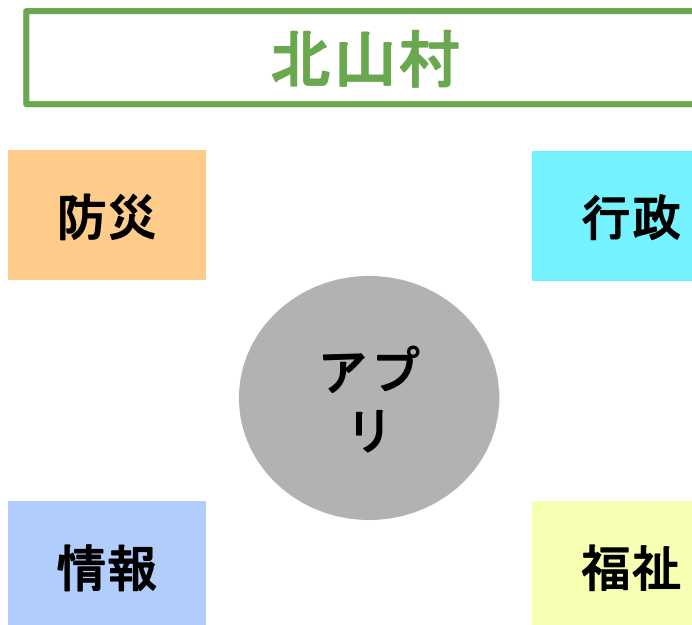
- ①同規模自治体によるDX推進における問題の共有
- ②原案の作成及び推進体制の構築

# 次年度の取り組み予定

## ①三村連携の更なる拡充

## ②原案を基にしたDX事業の実現

今年度の研修などで学んだ内容を活かし、作成した原案をさらに実用的なものにしていきます。また、引き続き県をまたいだ合同研修も続けていく予定です。



近い環境だからこそその  
同じ悩み



DXだけに限らず  
幅広い連携



行政サービスの集約  
アプリ化



# 10. 串本町

※オンライン

# R6年度DXの取り組みと成果

- ①職員研修実施
- ②業務改善案募集
- ③有志職員によるDX推進会議(仮)

今年度は、地方公共団体の経営・財務マネジメント強化事業を活用し、御坊市中村様に登壇いただき、DXの必要性を町長・副町長含め「腹落ち(心から納得している状態)」してもらう事ができました。

## 串本町



よろず相談を活用した取り組みと成果(上記と対応)

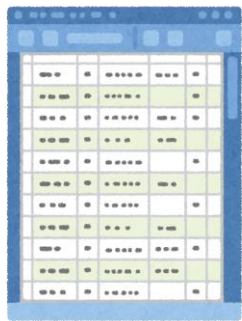
- ①地方公共団体の経営・財務マネジメント強化事業をご紹介いただき実施

# 次年度の取り組み予定

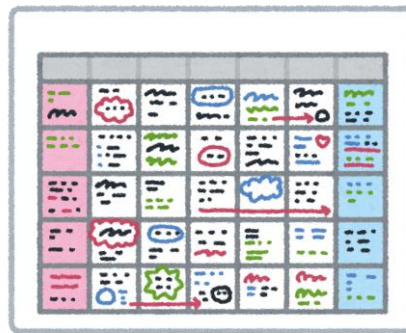
- ①DX推進会議(仮)の継続
- ②業務改善案募集の継続
- ③業務改善案募集への具体的な対応



現在月1回を目途に開催しているDX推進会議(仮)及び改善案募集の継続と、業務改善案を具体的に実現していきたいと考えています。



死亡届提出後各課等情報共有による業務改善



福祉課管轄町内施設予約管理業務改善



窓口手数料の電子決済導入



# 和歌山県・市町村DX 紀南アワード (Sli.do投票・表彰)



# 地域デジタル基盤活用推進事業 実績報告

デジタル社会推進課・有田市



市町村DX成果発表会  
～地域社会DXの取組～

---

令和7年3月7日

# 地域DXの推進について

- 都道府県と市町村等が連携したDX推進体制を構築することが重要。（令和6年1月19日総務大臣書簡）
- 令和7年度中に全都道府県で地域DXに係る推進体制を構築することが国の方針等に盛り込まれたところ。
- 和歌山県として、自治体DXの推進・支援に取り組んできたが、令和5年度から、地域社会DXの推進・支援に取り組んでいるところ。
- 有田市が先行して地域社会DXに取り組んでいる。（令和5年度総務省補正予算事業）

## 自治体DX

### フロントヤード改革

- 「書かない窓口」など住民との接点の多様化・充実化
- データ対応の徹底による窓口業務の改善

### バックヤード改革

- 基幹業務システムの標準化・共通化

### マイナンバーカードの普及促進・利便性向上

- マイナンバーカード取得環境の整備
- 救急業務の迅速化・円滑化

### データドリブンな行政経営

- 利活用しやすい統計データ等の整備
- データ利活用のノウハウ提供支援

▶ 住民の利便性向上や業務改革による政策立案の能力向上

等

## 地域社会DX

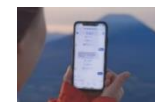
### ドローン

買い物弱者支援のためのドローンを活用した物流システムの構築  
（長野県伊那市）



### 観光（自治体間連携）

多言語翻訳AIチャットボットを活用した外国人への情報発信強化  
（北海道蘭越町・ニセコ町・倶知安町）



### 医療

マイナンバーカードを利用した医療・介護施設での患者データ確認、カードの共通診察券化  
（高知県宿毛市）



### 保育

マイナンバーカードにより園児の登降園を管理  
（高知県宿毛市）



### 自動運転

高精細映像のリアルタイム伝送による自動運転バスの安全性向上  
（群馬県）



へき地の郵便局でのオンライン診療  
（石川県七尾市）



▶ 人口減少等による地域の担い手不足等をはじめとする地域課題の解決

自治体における  
DX推進体制の構築

デジタル人材の  
確保・育成の推進

情報通信環境の整備

# 〔参考〕 地域DXを支える推進体制の構築に向けて

〔総務省の資料より抜粋〕

## 推進体制の構築・拡充の要請

- 地域におけるDXの取組を全国津々浦々に広げていくため、都道府県と市町村等が連携したDX推進体制を構築することが必要。
- そのため、令和6年1月19日に都道府県知事・市町村長宛に総務大臣書簡及び通知を発出し、各都道府県において、推進体制を構築・拡充するよう要請。

### ◆ 現状

都道府県と市町村との連携は一定程度進んでいるが、一部では効果的な推進体制になっていない可能性。

#### ✓ (対市区町村) 都道府県と連携していますか？

- ・ 管内自治体の60%以上が「連携している」と回答した地域 : 22都道府県
- ・ 管内自治体の60%以上が「連携していない」と回答した地域 : 6道県

### ◆ 好事例

推進体制を構築した上でニーズに沿った支援を展開

#### 【熊本県】

- ・ 全市町村訪問による課題把握
- ・ 市町村DX研修（中核人材の育成）
- ・ 情報システムの共同調達
- ・ オープンデータの取組支援等

#### 【山口県】

- ・ 標準化対応の進捗把握
- ・ 外部人材による相談窓口設置
- ・ アナログ規制の点検見直しの牽引
- ・ デジタル実装推進事業等

## 補正予算を活用した伴走支援

(地域デジタル基盤活用推進事業47.5億円【R5補正】の内数)

- 地域DXの更なる推進に向けた具体的な課題を把握し、都道府県と市町村等が連携した地域DXの推進体制の構築・拡充を総務省が伴走支援することで、地方公共団体が自立的にデジタル実装に取り組める持続的な支援環境を構築。

### STEP 01

#### 課題整理・取組方針の共有

- ◆ 各市町村の課題の洗い出し・深掘り
- ◆ 具体的な解決策の検討
- ◆ 都道府県・市町村等による課題の共有、首長レベルでの取組方針の検討・共有

### STEP 02

#### 推進体制の構築・拡充

- ◆ 首長レベルの合意による都道府県と市町村の連携によるDX推進のための体制整備
  - ◆ 都道府県と市町村等の連携に基づく地域DXに関する取組を推進
- 想定される取組(例)
- ・ 共同宣言や協定等に基づく、定期的に情報共有を行う会議体等の設置
  - ・ 市町村のDXの進捗状況の共有
  - ・ 共同研修、外部人材確保
  - ・ 共同調達
  - ・ DXに取り組む個別事業の設定・推進

### 地域社会課題解決のための具体的なプロジェクト支援

#### 具体的なデジタル実装の取組

- ・ 計画策定支援
- ・ 地域の関係者を巻き込んだプロジェクト推進体制の構築支援
- ・ 課題解決に向けた先進的ソリューションの実証
- ・ 通信インフラの実装

#### 改善

- ・ 地域DX導入後の効果測定・課題探索
- ・ 実装後の運用準備

地域のニーズに応じ組み合わせて支援



# 地域デジタル基盤活用推進事業（推進体制構築） 実績報告

## データを活用した地域DX推進体制の構築・拡充（和歌山県有田市）

- 概要**
- ✓ 課題：有田市では、R5年度より地域社会DXの推進に取り組むため、データ連携基盤の整備及び産官連携の協議会を設立したところであるが、**本協議会への運営支援に関するノウハウがなく、また、持続的な運営を可能とするビジネスモデルにおける具体的構想がない**状態である。
  - ✓ 支援内容：協議会でのサービス実装に向けたプロジェクトの組成支援、ビジネスモデルの創出に向けた検討支援、市職員からのアイデア創出を目的とした研修・ワークショップの実施を行う。
  - ✓ 支援結果：協議会において**プロジェクトを3つ組成**し、将来的にビジネスモデルとなり得るものとなるよう組成することができた。また、市職員を対象とした**研修・ワークショップを実施し、デジタル人材の育成に寄与**することができた。

	・有田市スマートシティ推進協議会(CoDA)でのプロジェクト組成支援 ・CoDAの持続可能な運営のためのビジネスモデルの創出に向けた検討支援	市職員からのアイデア創出を目的としたDX人材の育成支援
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各ワーキンググループ(WG)の運営支援</li> <li>・ヘルスケアWGでの実証実験の実施支援</li> <li>・地域内ステークホルダーとの調整支援</li> <li>・協議会への参加企業数増加に向けた活動支援</li> <li>・協議会員間でのアイデア創出ワークショップの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部署への業務課題ヒアリングの実施</li> <li>・DX人材育成計画の策定</li> <li>・計画に基づいた以下の<b>研修・ワークショップを実施</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>①管理職向けDX意識醸成研修</li> <li>②サービスデザイン研修(※別事業を活用)</li> <li>③スマートシティ基礎講座</li> <li>④政策効果測定研修</li> <li>⑤DX人材育成研修～デザイン思考の実践～</li> </ol> </li> </ul>
結果(アウトカム)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会での<b>プロジェクトを3つ組成</b></li> <li>→協議会への支援ノウハウを蓄積</li> <li>→次年度以降これらのプロジェクトからサービスを創出することで、持続的な運営を可能とするビジネスモデルの創出の可能性を見出すことができた。</li> <li>・協議会への<b>参画事業者が5社増加</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識の習得だけでなく実践まで行う研修プログラムの構築</li> <li>・自らの業務課題、解決策、解決策の効果を見つめ直すワークシートの作成</li> <li>→これまでDXに否定的な意見を述べていた職員も、年度末には他人の課題に対し自ら解決策を提案する姿が見られ、<b>本研修プログラムが意識の変革の一助になった</b>と考えている。</li> </ul>
地域社会DX推進に向けた今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今年度組成したプロジェクトについて、速やかなサービス実装に向けた検討を継続的に進めるとともに、今年度新規参入した事業者との連携による新規プロジェクト組成も併せて進めていく。また、<b>協議会と庁内部署の連携を強化させるための庁内連携体制の構築</b>を検討していく。さらに、有田市が運用する<b>データ連携基盤(都市OS)の県内市町村との共同利用の可能性について、和歌山県と検討</b>していく。</li> <li>●今年度の研修プログラムに基づき、令和7年度以降も研修・ワークショップを実施し、市職員からのサービス創出につながるアイデア創出を目指していく。</li> </ul>	

和歌山県・市町村DX

重点分野アワード

(行政経営変革・人づくり分野)

和歌山県・市町村DX専門プロデューサー

戸塚 芳之



和歌山県・市町村DX

重点分野アワード

(サービスデザイン・組織づくり分野)

和歌山県・市町村DX専門プロデューサー

前田 聡一郎



和歌山県・市町村DX

重点分野アワード

(テクノロジー・仕組みづくり分野)

和歌山県・市町村DX専門プロデューサー

下山 紗代子



# 総括

和歌山県・市町村DX総合プロデューサー  
菅原 直敏



# 閉会のご挨拶

和歌山県 行政企画課  
口井 良太 氏



# 写真摄影